

『魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート』結果

- 1 目 的 これからの滋賀の県立高等学校づくりに生かす基礎資料とする。
- 2 実施時期 令和 2 年 10 月
- 3 対 象 ○中学校および義務教育学校
市町立中学校 1、2 年生徒その保護者
市町立義務教育学校 7 年生、8 年生とその保護者
県内 95 校中の 44 校（市町別 1～8 校）の各学年 1 学級分の抽出調査
- 高等学校
県立高等学校の 1、2 年の抽出した学級（46 校）の生徒とその保護者

		対象者総数	回答数	回答率
中学校 義務教育学校	生 徒	2,771	2,597	93.7%
	保 護 者	2,771	2,328	84.0%
	合 計	5,542	4,925	88.9%
高等学校	生 徒	5,567	5,091	91.4%
	保 護 者	5,567	4,566	82.0%
	合 計	11,134	9,657	86.7%
総 合 計		16,676	14,582	87.4%

- 目 次 ○中学校および義務教育学校
生徒アンケート結果 P 2 ～ P 8
保護者アンケート結果 P 9 ～ P.15
- 高等学校
生徒アンケート結果 P 16 ～ P 25
保護者アンケート結果 P 26 ～ P 36
※参考：割合（%）は合計が 100%にならない場合もある。
（無回答や四捨五入による）
- アンケート用紙 P 37 ～ P 40
○骨子イメージ P 41

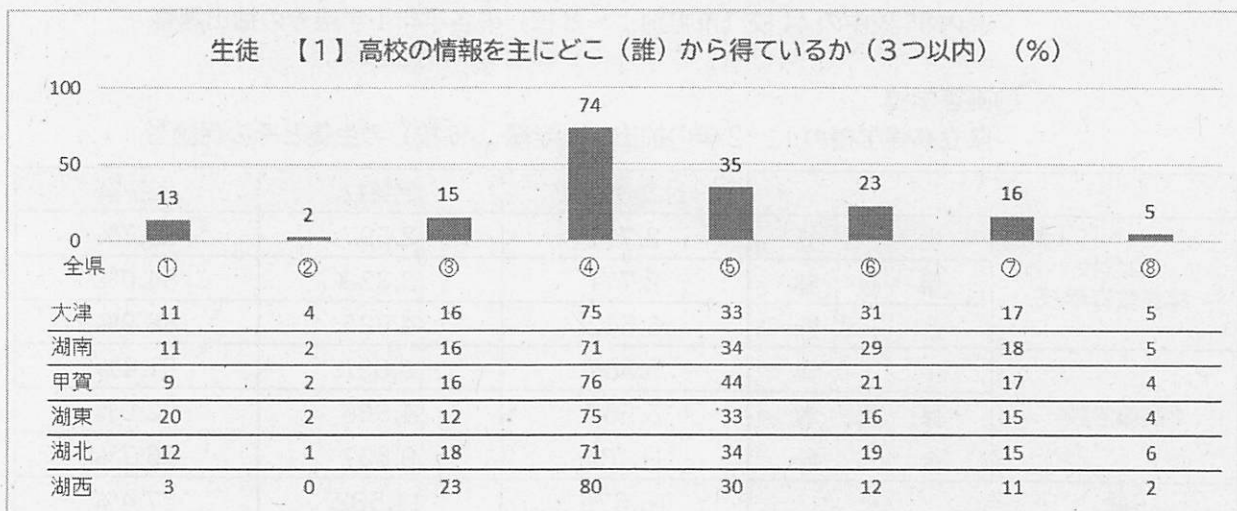
中学校および義務教育学校 生徒アンケート結果

※地域について

- 大津……大津市
- 湖南……草津市、守山市、栗東市、野洲市
- 甲賀……甲賀市、湖南市
- 湖東……彦根市、近江八幡市、東近江市、日野町
竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
- 湖北……長浜市、米原市
- 湖西……高島市

【1】あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談
- ②高校での体験入学、学校説明会
- ③高校のホームページ、パンフレット
- ④家族・親戚
- ⑤友人・先輩
- ⑥学習塾
- ⑦インターネット（高校のホームページ以外）
- ⑧その他



○高校の情報を、「④家族・親戚(74%)」や「⑤友人・先輩(35%)」から得ている生徒が多い。

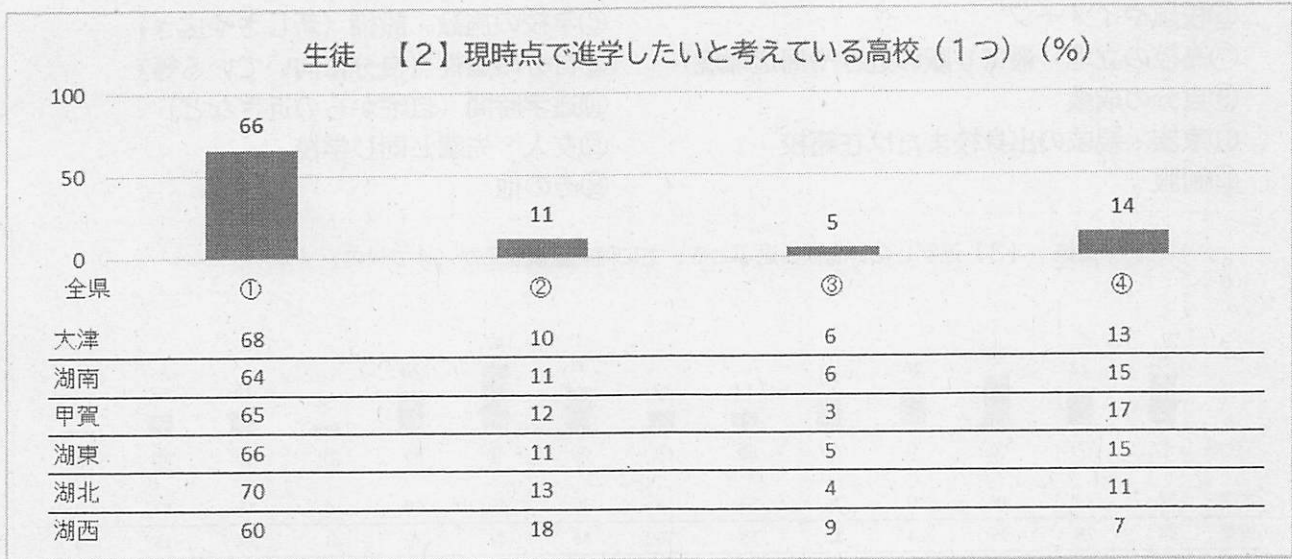
※高校での体験入学や学校説明会は中学3年生が対象となっていることなどから、中学1・2年生では「①中学校の先生や中学校での進路相談」、「②高校での体験入学、学校説明会」は少ない。

(P15 参照)

○地域別でみると、大津、湖南地域では「⑥学習塾」から情報を得ている割合が高い(約30%)。

【2】現時点で進学したいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他



○「①県内の県立高校」へ進学したいと考えている生徒が最も多い(66%)。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「私立よりも学費が安い」、「家族・親戚が通っていたから」という回答が多かった。

○「④その他」と回答した生徒の割合が14%であることから、中学1・2年生の段階では進学したい高校が定まっていない生徒も多い。

○主な理由

①県内の県立高校

- ・家から近く通学しやすい
- ・私立よりも学費が安い
- ・家族・親戚が通っていたから
- ・行きたいと思っている高校が県立高校
- ・親に勧められた

②県内の私立高校

- ・野球等の部活動が強い
- ・施設、整備が整っている
- ・学びたい学科がある

③県外の私立高校

- ・野球等の部活動が強い
- ・県外に行って環境を変えたい

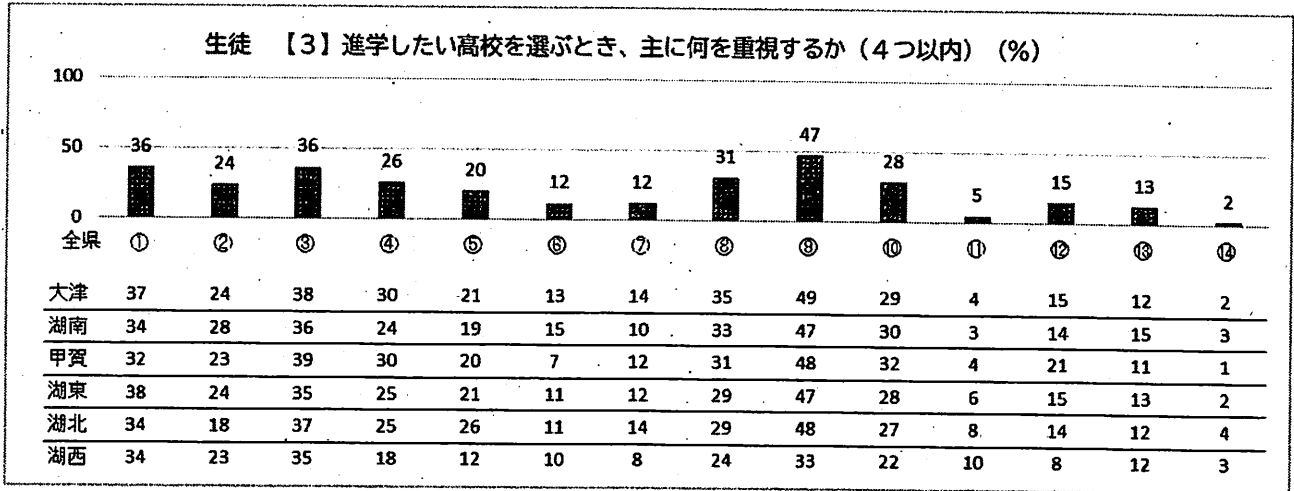
④その他

- ・まだ決まっていない

等

【3】あなたは進学したい高校を選ぶとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

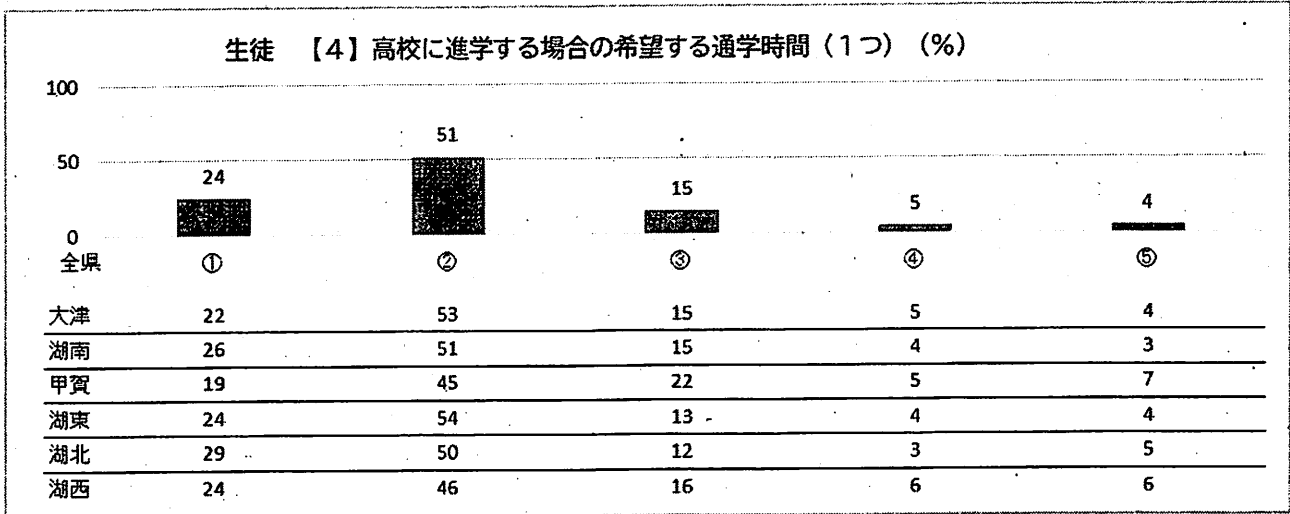
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧自分の適性（自分に向いている等） |
| ⑨自分の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



○「⑨自分の成績(47%)」、「①学びたい学科、学習内容(36%)」、「③部活動(36%)」、「⑧自分の適性(31%)」を重視して高校を選択する生徒が多い。

【4】あなたは高校に通学する場合、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

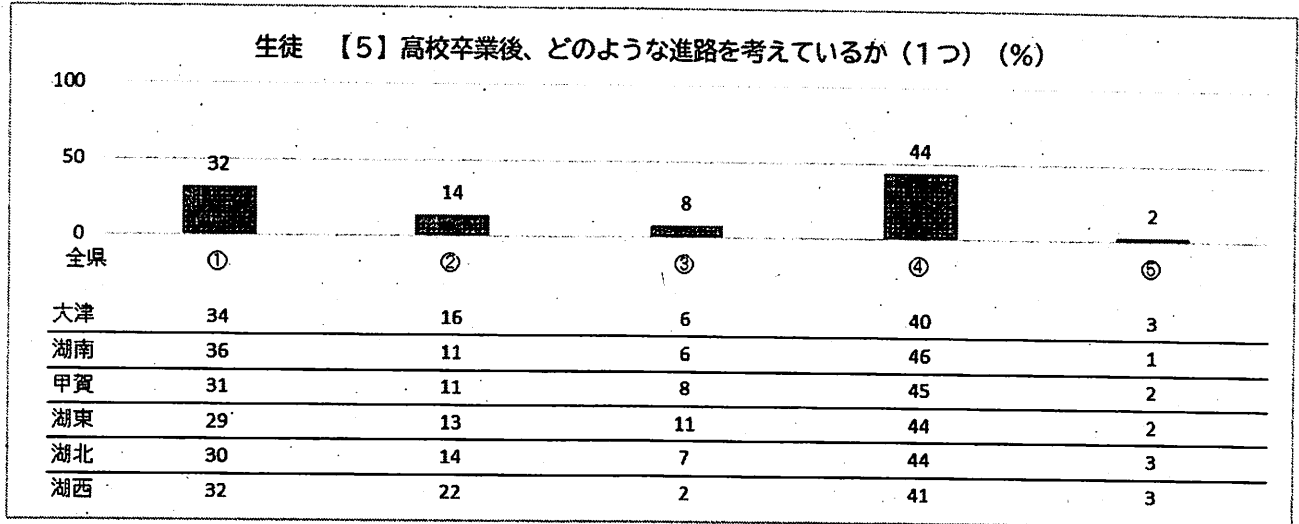


○75% (①+②)の生徒が、1時間以内の通学時間を希望している。

○地域別でみると、甲賀地域は、他地域よりも「③1時間30分以内」まで考えている割合は高い。
(22%)

【5】あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職 ④まだ考えていない ⑤その他



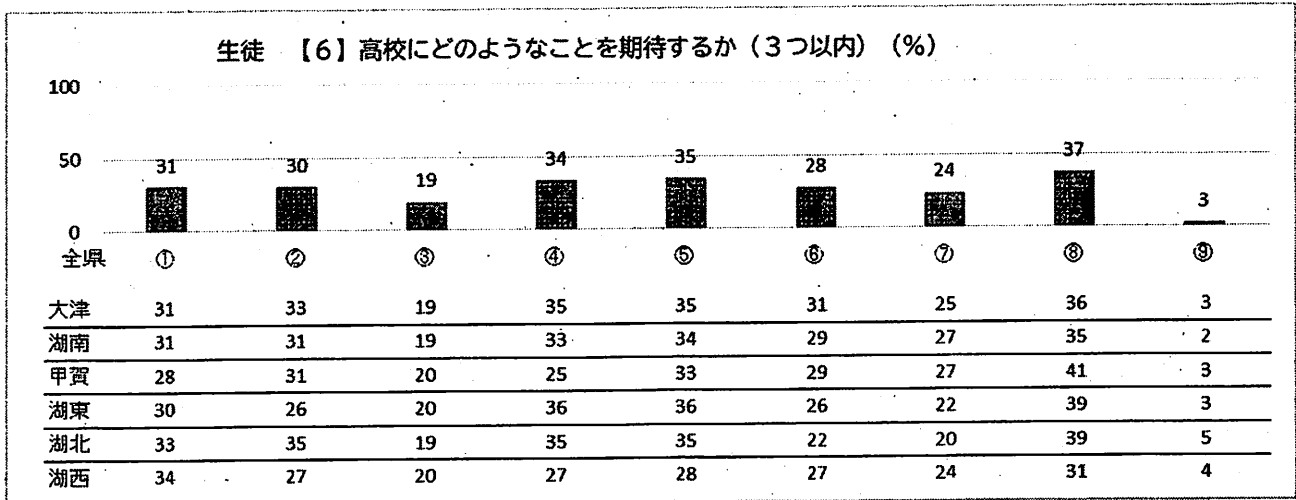
○中学1・2年生では、多くの生徒が高校卒業後の進路をまだ考えていない。

※「④まだ考えていない」：44%

○進路を考えている生徒の中では、「①大学・短期大学」への進学を考えている生徒が最も多い。
(32%)

【6】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることことができる。
- ⑨その他



○多くの友人をつくることを高校に期待している生徒が最も多い。

※「⑧多くの友人をつくることことができる」：37%

○次いで、「⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる(35%)」、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(34%)」の回答が多い。

【7】 これからの滋賀の県立高校又はあなたが行きたいと思う学校が、さらに魅力ある学校になるためには何が必要か。

○主な意見

<施設・設備等について>

- ・施設、設備が整っており、きれいな校舎（特にトイレ）。
- ・学生寮をつくる。
- ・食堂がほしい。
- ・自習室がある学校。
- ・交通の便がいいところにある学校（駅から近い等）。

<学習について>

- ・基礎的、基本的な学力を身に付けられ、大学への進学レベルの学力も身に付けられるような学校。
- ・中学校ではできないような体験や校外学習を、高校で体験できるようにしてほしい。
- ・楽しい授業が受けたい。
- ・資格が取りやすい勉強ができる。
- ・多様な選択科目を設定してほしい。
- ・自分が興味ある科目などをもっと選べる学校。
- ・将来何をしたいかなどの夢を見つけたい。
- ・タブレットを導入して教科書やノート等の荷物を減らし、電子上で学習内容をまとめられるようにする。
- ・オンライン授業を取り入れる。

<部活動・学校行事等の学校生活について>

- ・勉強だけでなく行事や部活動も充実して楽しめるようにしてほしい。
- ・文武両道に励みたい。
- ・部活動の種類が多い学校。強い部活動がある学校。
- ・この学校にしかない名物となる学校行事をつくる。
- ・地域・他校との交流を深めたい。
- ・友達をたくさんつくりたい。
- ・明るく楽しい学校生活を過ごしたい。
- ・いじめのない安心安全な学校。
- ・先生と仲良くしたい。

<その他>

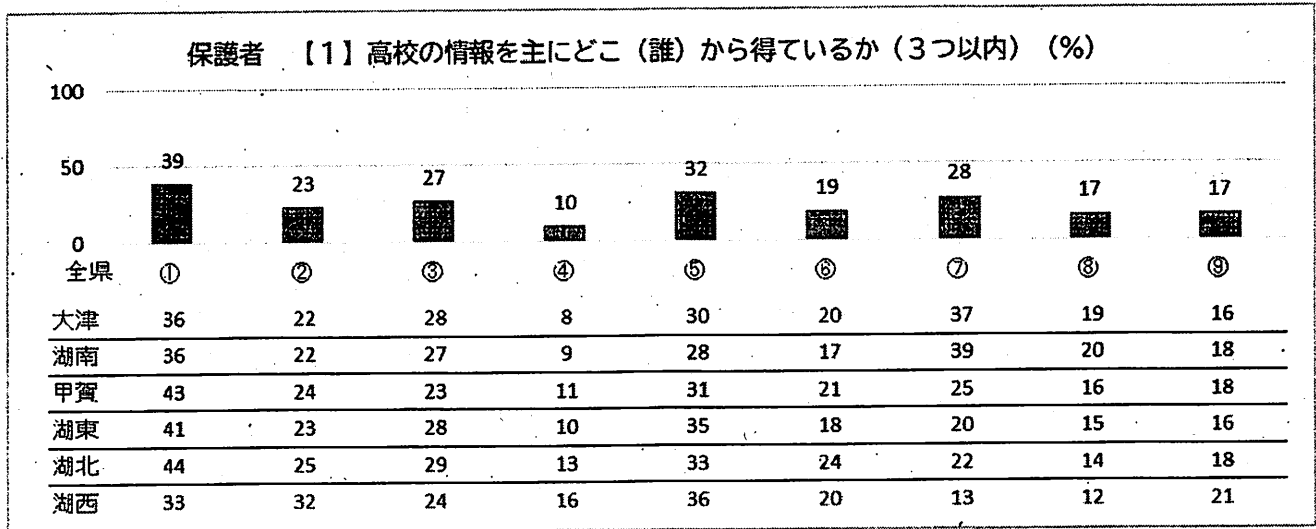
- ・募集定員を増やしてほしい。
- ・1クラスの生徒数を少なくしてほしい。
- ・学力に関係なく、誰でも好きな高校に行けるようにする。
- ・生徒の意見を取り入れる。
- ・厳しすぎない校則。
- ・スマホの持ち込み自由な学校。
- ・私立のようにかわいい制服にする。
- ・アルバイトをしてもよい学校。
- ・優しくておもしろい先生がいてほしい。
- ・各高校の特色や魅力が深くまで知られていないので、もっと情報発信したらよいと思う。
- ・中学1年生の頃から高校に触れる機会をつくる。

等

中学校および義務教育学校 保護者アンケート結果

【1】あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ① 中学校の先生や中学校での進路相談
- ② 高校での体験入学、学校説明会
- ③ 高校のホームページ、パンフレット
- ④ お子様本人
- ⑤ 家族・親戚
- ⑥ お子様の友人・先輩
- ⑦ 学習塾
- ⑧ インターネット(高校のホームページ以外の情報)
- ⑨ その他

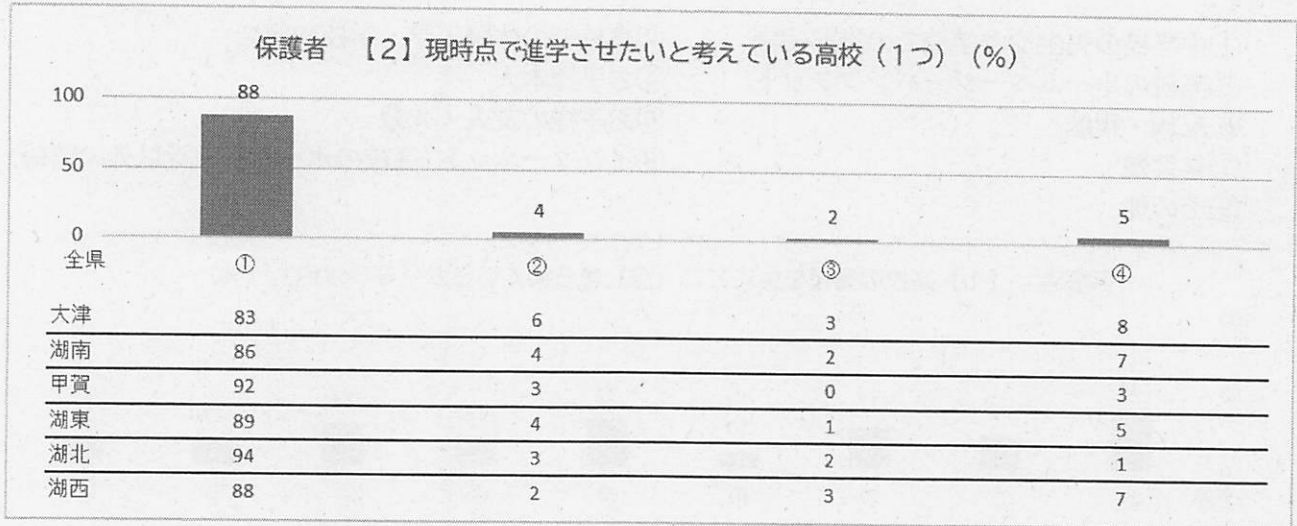


○「①中学校の先生や中学校での進路相談(39%)」から高校の情報を得ている保護者が最も多く、「⑤家族・親戚(32%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

○地域別でみると、大津、湖南地域では「⑦学習塾」から情報を得ている割合が高い(約38%)。

【2】現時点でお子様に進学させたいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他



○88%の保護者(中学生は66%)が、「①県内の県立高校」へ進学させたいと考えている。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「学費が安い」、「子どもの希望」という回答が多かった。

○主な理由

①県内の県立高校

- ・家から近く通学しやすい
- ・学費が安い
- ・子どもの希望
- ・魅力ある学校がある
- ・部活動
- ・学校の選択幅がある

②県内の私立高校

- ・部活動
- ・大学進学

③県外の私立高校

- ・県内に子どもが学びたい学科がない

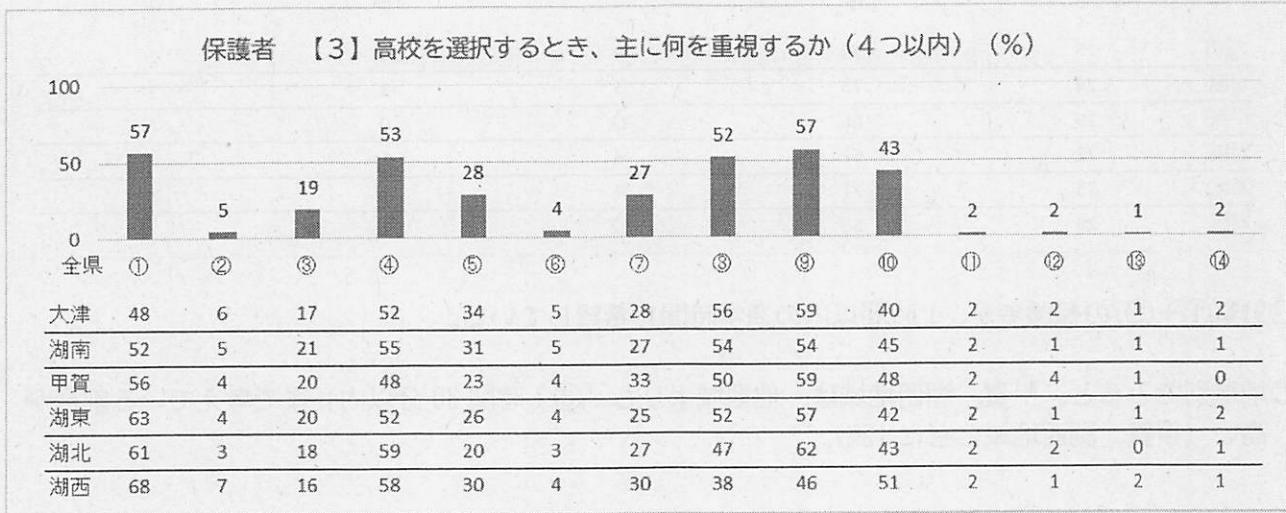
④その他

- ・高等専門学校

等

【3】 あなたはお子様が高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

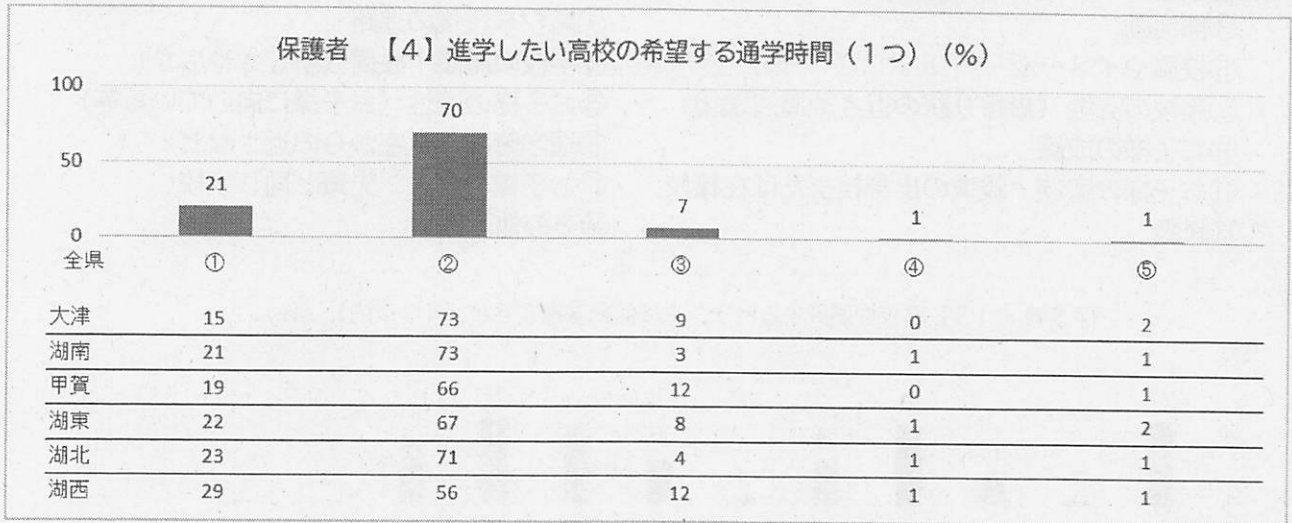
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧お子様の適性（お子様に向いている等） |
| ⑨お子様の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫お子様の友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



○ 「⑨子どもの成績（57%）」を踏まえて、「①学びたい学科・学習内容(57%)」、「④高校卒業後の進路(53%)」、「⑧子どもの適性(52%)」を重視して高校を選択する保護者が多い。

【4】お子様の進学したい高校について、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

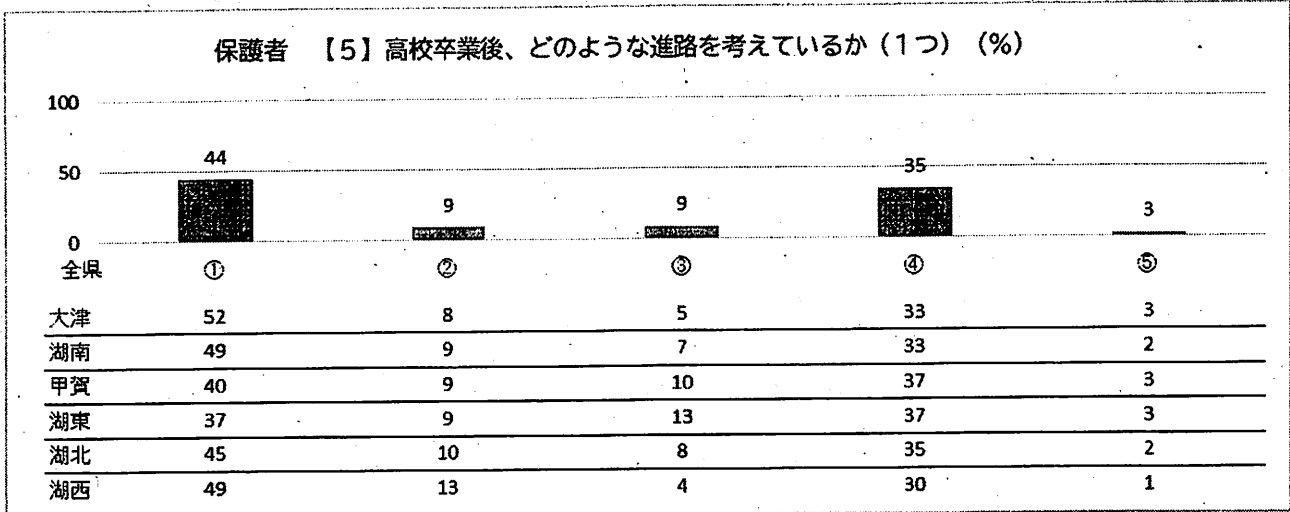


○91%(①+②)の保護者が、1時間以内の通学時間を希望している。

○地域別でみると、甲賀、湖西地域は、他地域よりも「③1時間30分以内」まで考えている割合が高い（甲賀、湖西地域ともに12%）。

【5】あなたは、お子様が高校に進学した場合、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。次の中から1つ選んでください。

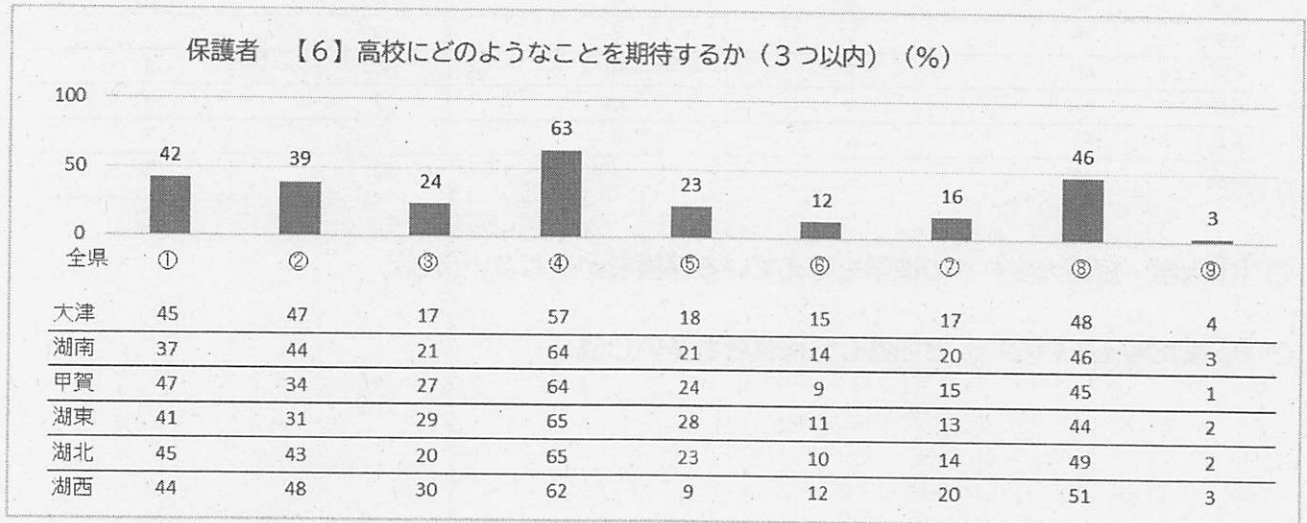
- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職 ④まだ考えていない ⑤その他



- 「①大学・短期大学」への進学を考えている保護者が最も多い(44%)。
- 「④まだ考えていない」と回答した保護者も多い(35%)。

【6】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



- 「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる」と回答した保護者が最も多い(63%)。
- 次いで、多くの友人をつくり、交友関係の幅を広げてほしいと考えている保護者が多い。
※「⑧多くの友人をつくることできる」：46%
- 「①基礎的・基本的な学力(42%)」から、「②大学等への進学のための学力(39%)」を身に付けられる高校を期待している保護者も多い。

【7】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思うことがあれば書いてください。(記述)

○主な意見

<施設・設備等について>

- ・私立高校のように施設（トイレや教室）をきれいにする。
- ・食堂を作ってほしい。

<学習について>

- ・子どもの可能性を拡げてやりたい。
- ・基礎から学べるようにしてほしい。
- ・学習面における丁寧なフォロー。
- ・大学進学に向けた、きめ細かな指導。
- ・子どもが将来希望の職業に就けるようなサポート。
- ・学習塾に行かなくても、補習等を充実させて高校だけで学力が向上できるようにしてほしい。
- ・子どもたち自身で考えたりする機会がもっとあるとよい。
- ・勉強ばかりでなく、地域と関わったり学んだりできる学習、人間性を深められるような行事、校外学習が多くあるとよい。
- ・教科書だけでなく、i P a dなどの情報機器を活用して授業の幅を広げてほしい。学習環境やスクールカウンセラーの配置等を、私学のように充実させてほしい。
- ・ICTの環境整備を進め、オンライン授業を普及することで学校の境界のない教育活動が可能ではないか。子どもにとっても選択肢が増え、幅広くより社会活動に近い授業が可能になり、魅力的な学校になると思う。
- ・しっかりと学習や部活動に励むことができる学校をつくる。
- ・県立高校は、私学に比べると授業内容、進学のフォローなどが乏しい印象を受ける。普通科より特色のある専門学科を増やし、進学や就職に繋げる教育ができればいいと思う。
- ・学業の成績だけでなく、本人の興味や関心に沿った高校選択ができるように、多様な学科または特色ある高校を増やしてほしい。
- ・グローバル社会に対応できるスキルを身に付けることができる学校をつくる。
- ・発達障害等、障害を抱えている生徒の進学先の選択肢が増え、共生社会の実現に近づける学校づくりを進めてほしい。

<部活動・学校行事等の学校生活について>

- ・強い部活動がある学校をつくる。
- ・厳しい社会をたくましく生きていく力を育ててほしい。
- ・主体性と自立心を育む教育が必要だと思う。自立心を育むことで、生徒一人ひとりが自信を持ち、適切な進路選択につながる。
- ・楽しい高校生活を送ってほしい。
- ・いじめのない学校。

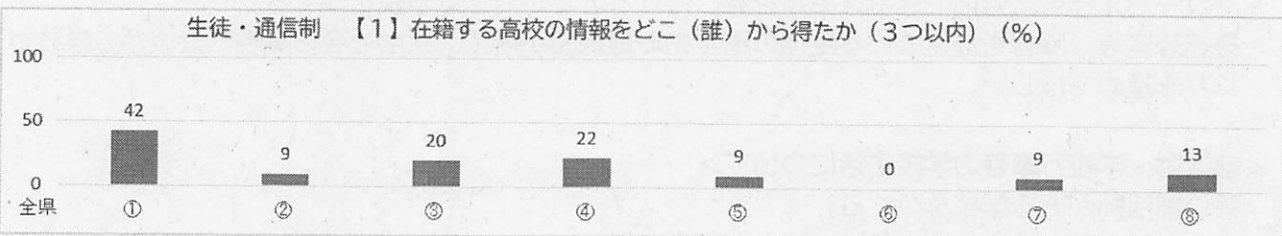
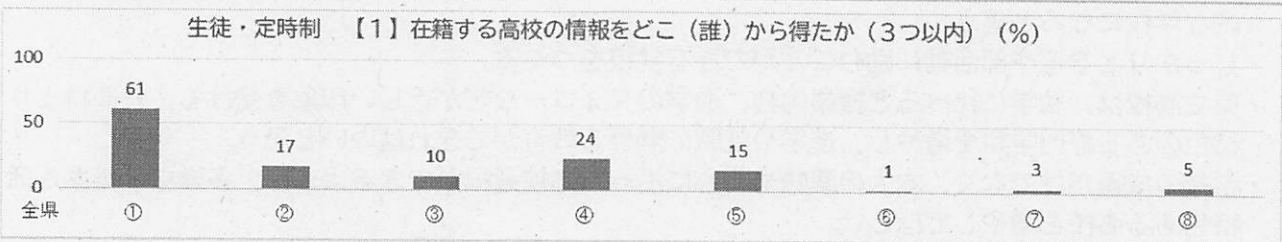
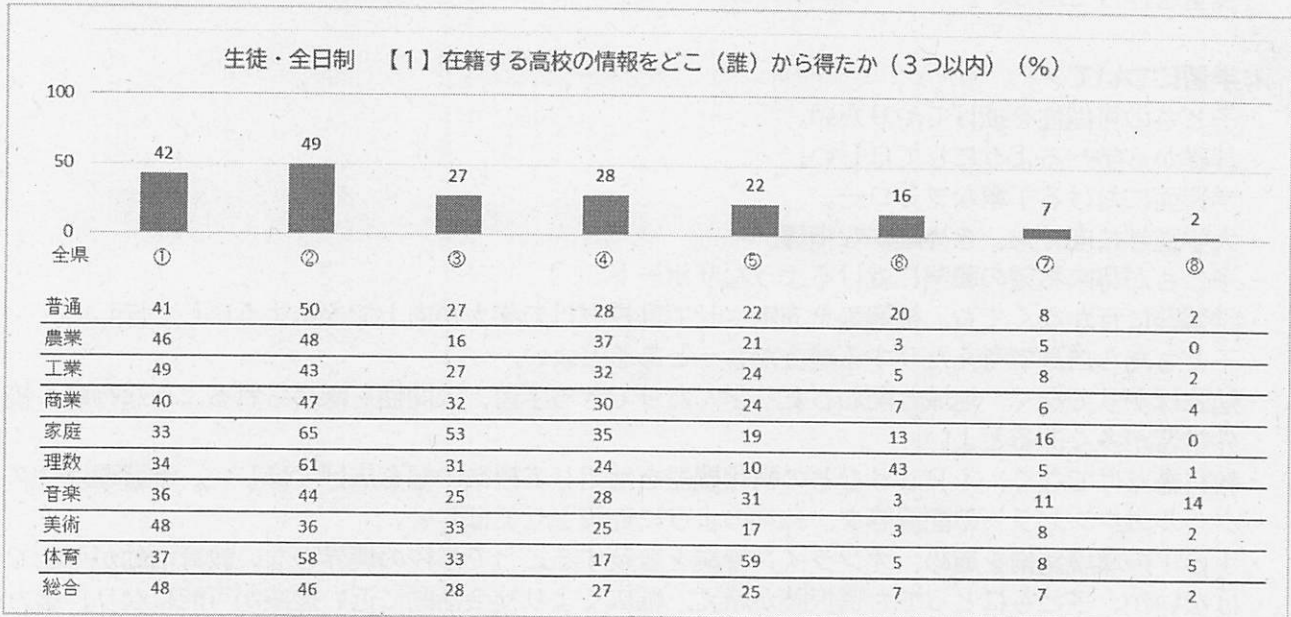
<その他>

- ・校則が厳しすぎる。先生が説明できないような校則はなくす。
- ・1学級30人くらいにしてほしい。
- ・他府県から転入してきた者にとっては、滋賀県の高校のことはほとんど分からない。各高校の特徴をアピールし、魅力や特色を発信できる場を多く設けていただければと思う。各校の違いが比較しやすく具体的な検討がしやすいと、本人も家族も安心して県立高校への進学ができる。
- ・教職員の資質向上。 等

高等学校 生徒アンケート結果

【1】 高校に入学する前、あなたは在籍する高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ① 中学校の先生や中学校での進路相談
- ② 高校での体験入学、学校説明会
- ③ 高校のホームページ、パンフレット
- ④ 家族・親戚
- ⑤ 友人・先輩
- ⑥ 学習塾
- ⑦ インターネット（高校のホームページ以外）
- ⑧ その他



<全日制>

○ 「②高校での体験入学、学校説明会(49%)」から在籍校の情報を得ている生徒が最も多く、「①中学校の先生や中学校での進路相談(42%)」からも多くの生徒が情報を得ている。

※家庭：「③高校のホームページ、パンフレット(53%)」の割合が、他学科と比べると高い。

※理数：「⑥学習塾(43%)」の割合が、他学科と比べると高い。

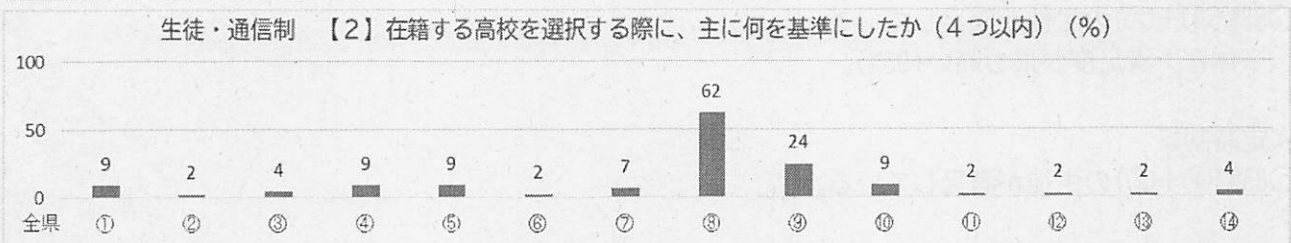
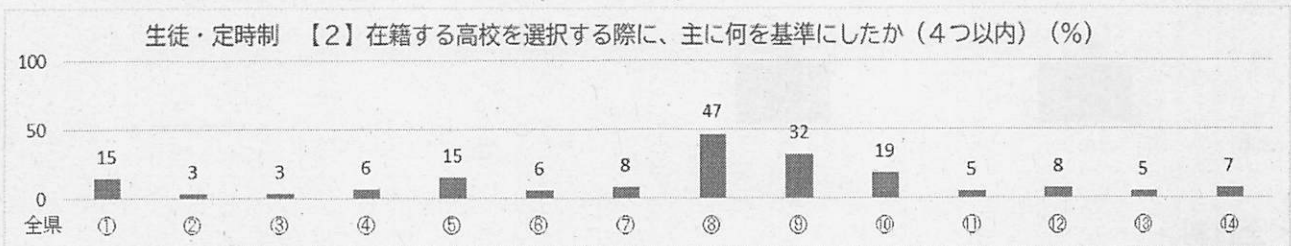
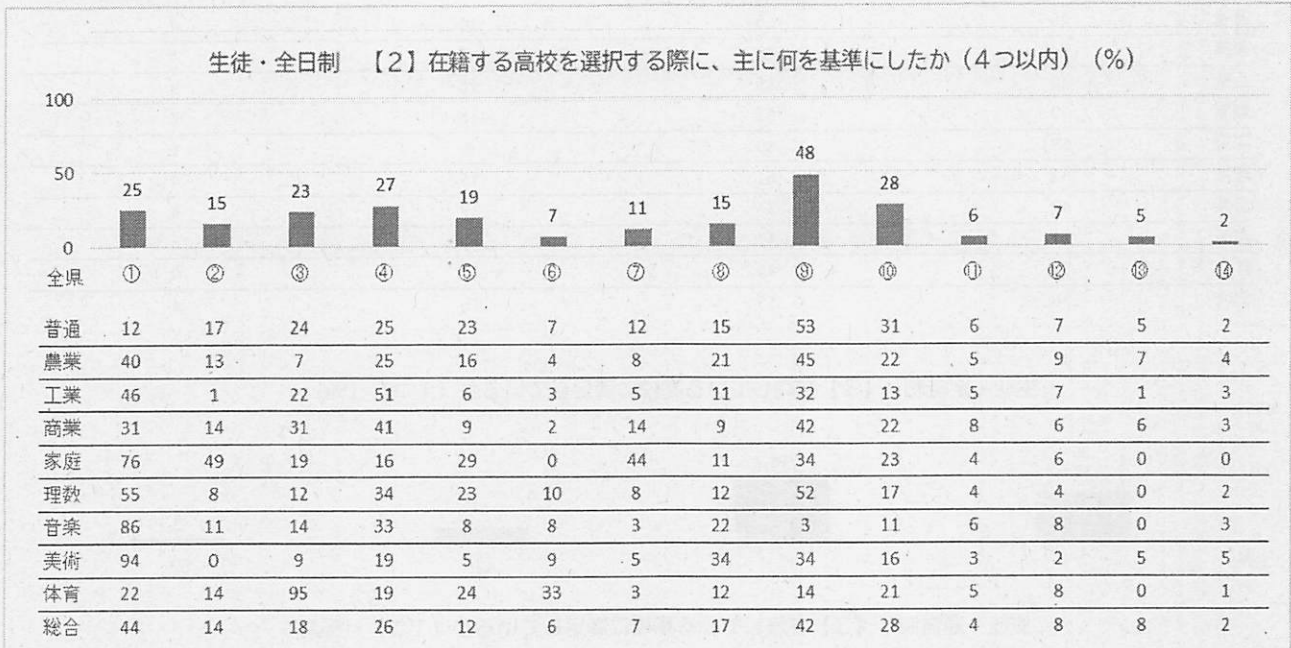
※体育：「⑤友人・先輩(59%)」の割合が、他学科と比べると高い。

<定時制・通信制>

○ 「①中学校の先生や中学校での進路相談(定 61%・通 42%)」から在籍校の情報を得ている生徒が最も多く、「④家族・親戚(定 24%・通 22%)」からも多くの生徒が情報を得ている。

【2】高校に入学する前、あなたの在籍する高校を選択する際に、主に何を基準にしましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧自分の適性（自分に向いている等） |
| ⑨自分の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



<全日制>

○「⑨自分の成績(48%)」を基準に、「⑩通学時間(28%)」や「④高校卒業後の進路(27%)」等を踏まえて在籍校を選択した生徒が多い。

※家庭・音楽・美術：「①学びたい学科、学習内容(家 76%・音 86%・美 94%)」の割合が高い。

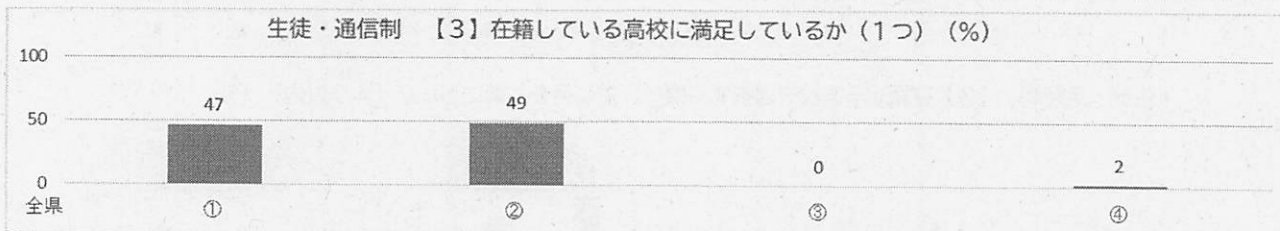
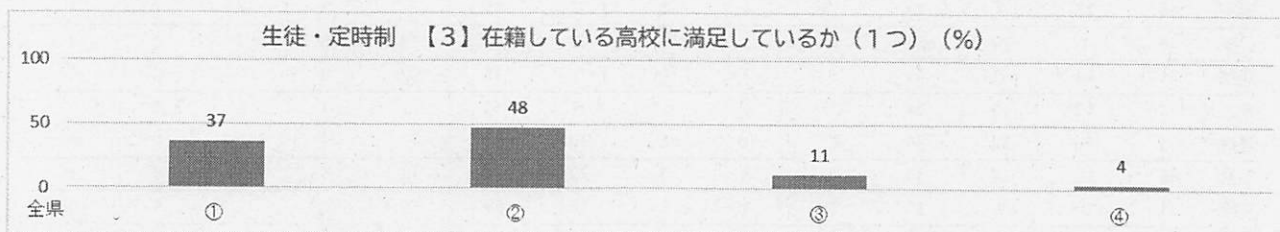
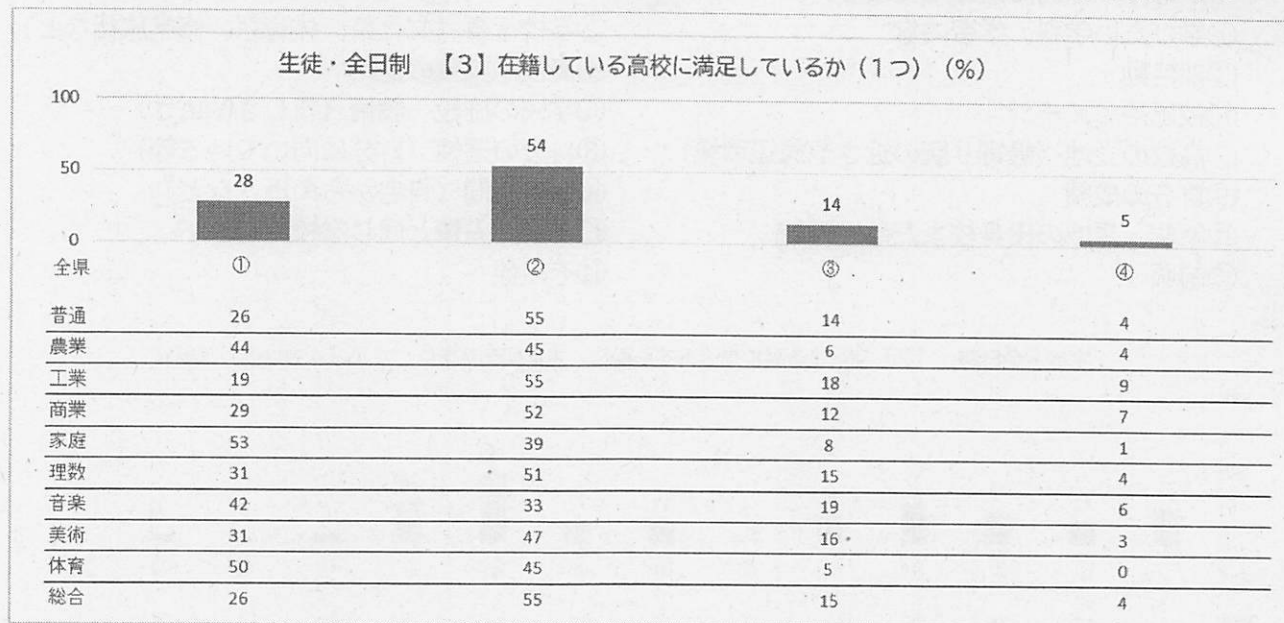
※体育：「③部活動(95%)」や「⑥学校の施設・設備(33%)」の割合が、他学科と比べると高い。

※音楽：「⑨自分の成績(3%)」の割合が、他学科と比べると低い。

<定時制・通信制>

○「⑧自分の適性(定 47%・通 62%)」や「⑨自分の成績(定 32%・通 24%)」を基準に在籍校を選択した生徒が多い。

【3】あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。
 ①満足している ②ある程度満足している ③どちらかといえば不満である ④不満である



<全日制>

○82%(①+②)の生徒が満足している。

※体育：満足度が最も高い(95%)。

<定時制>

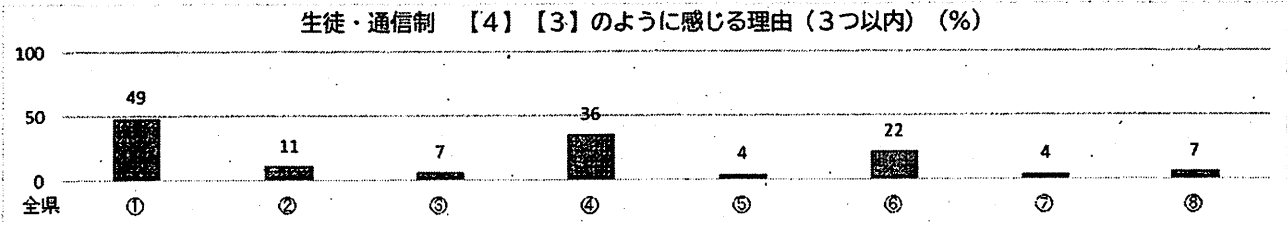
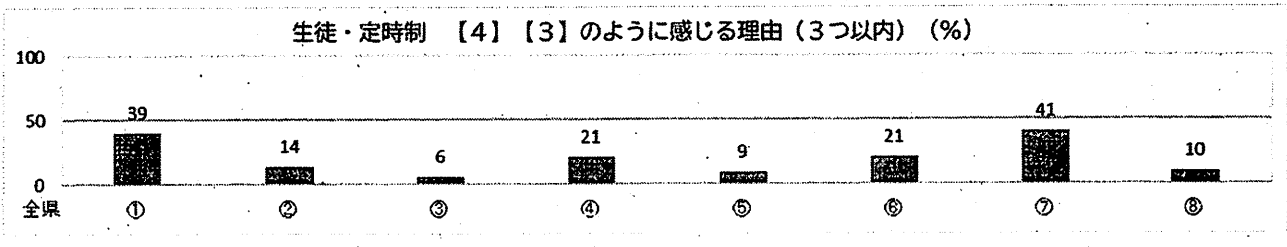
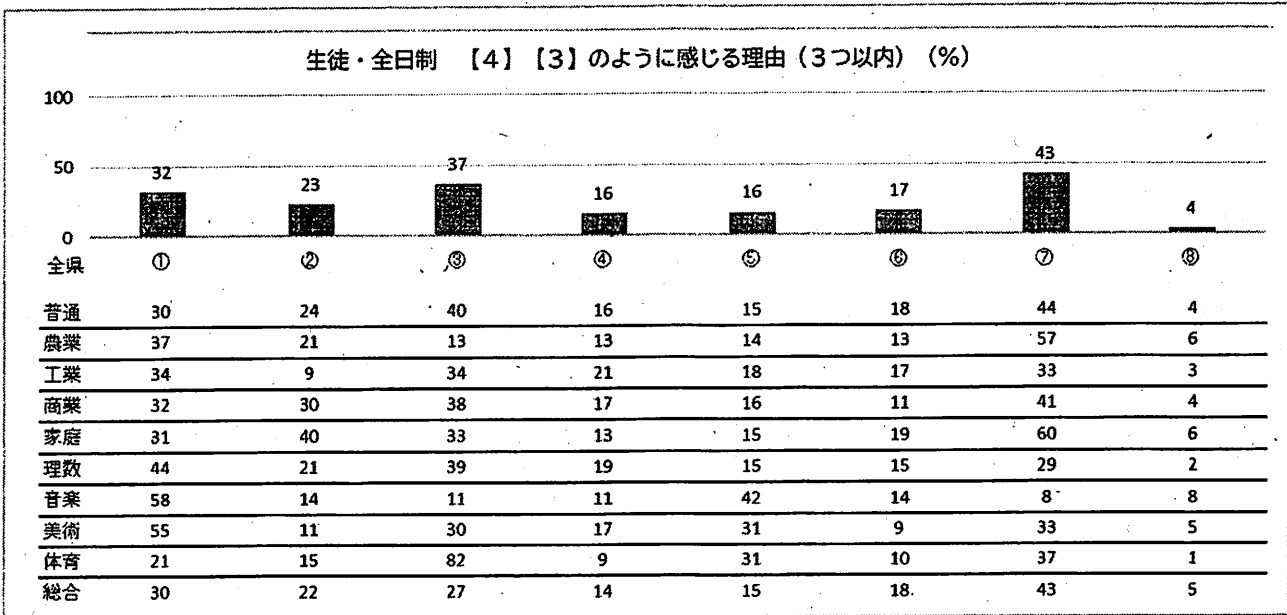
○85%(①+②)の生徒が満足している。

<通信制>

○96%(①+②)の生徒が満足している。

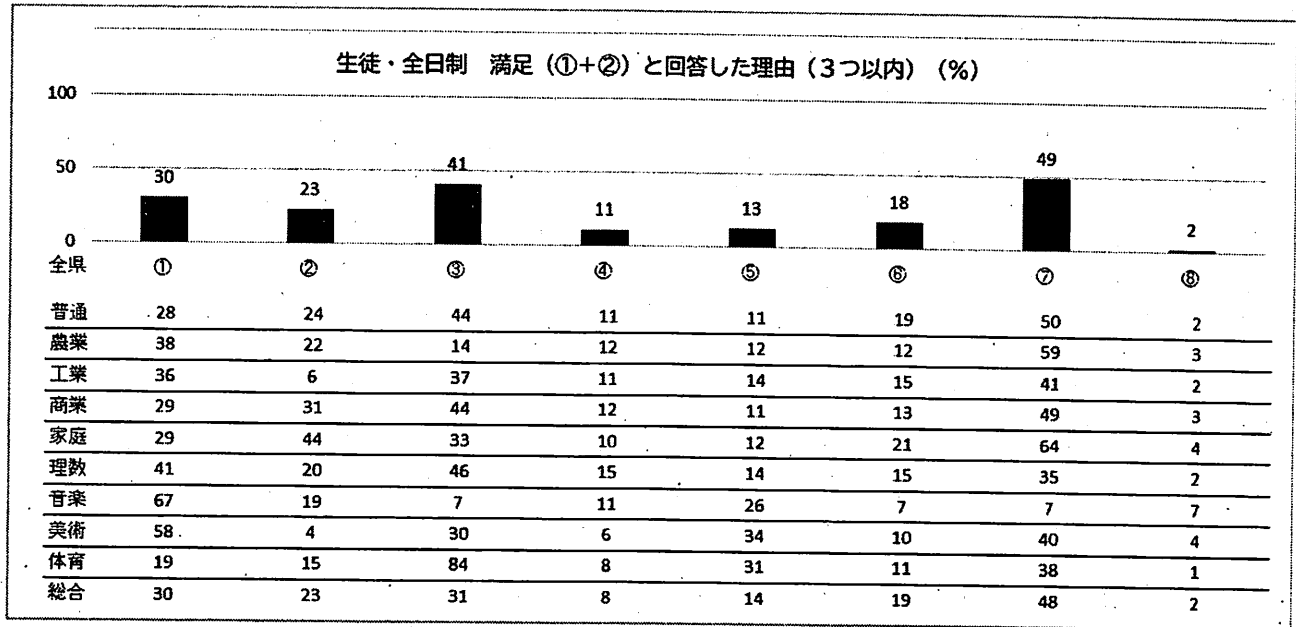
【4】【3】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
 ⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他



<補足>

◇満足(①+②)と回答した理由 (全日制)

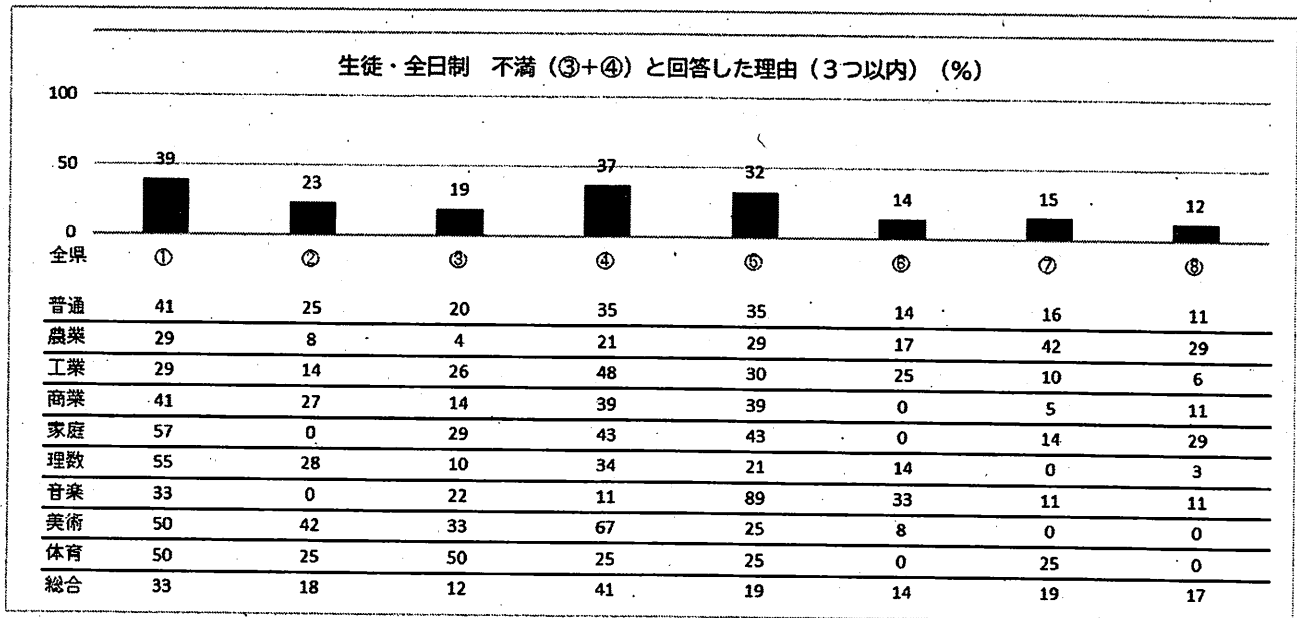


○「⑦友人や先輩との関係(49%)」、「③部活動(41%)」、「①授業(30%)」に満足しているという回答が多い。

※理数・音楽・美術：「①授業(理 41%・音 67%・美 58%)」の割合が高い。

※体育：「③部活動(84%)」の割合が最も高い。

◇不満(③+④)と回答した理由 (全日制)



○「①授業(39%)」、「④校風や教育方針(37%)」、「⑤学校の施設・設備(32%)」に不満があるという回答が多い。

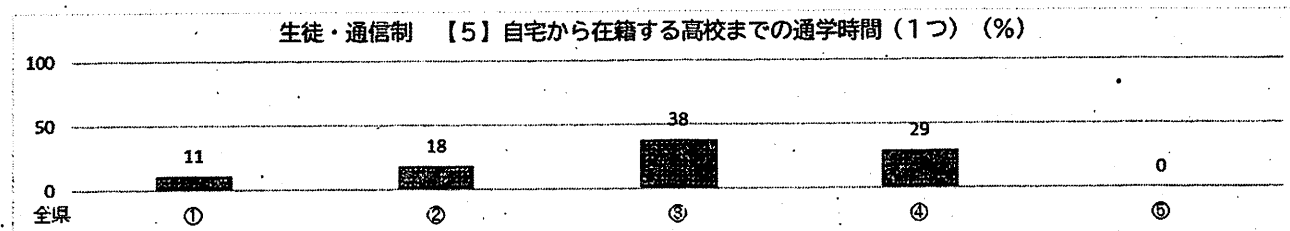
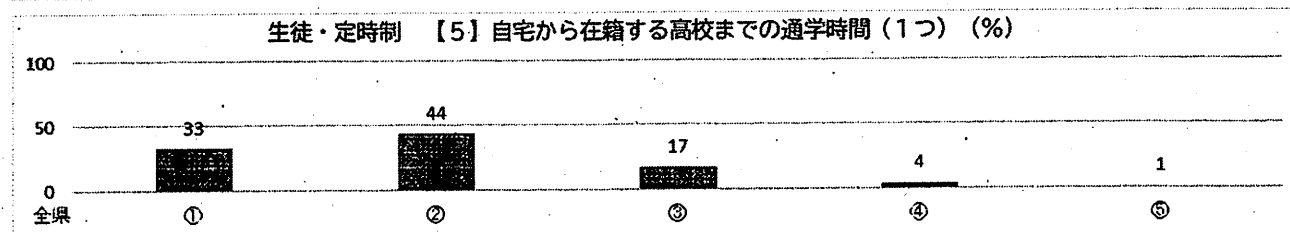
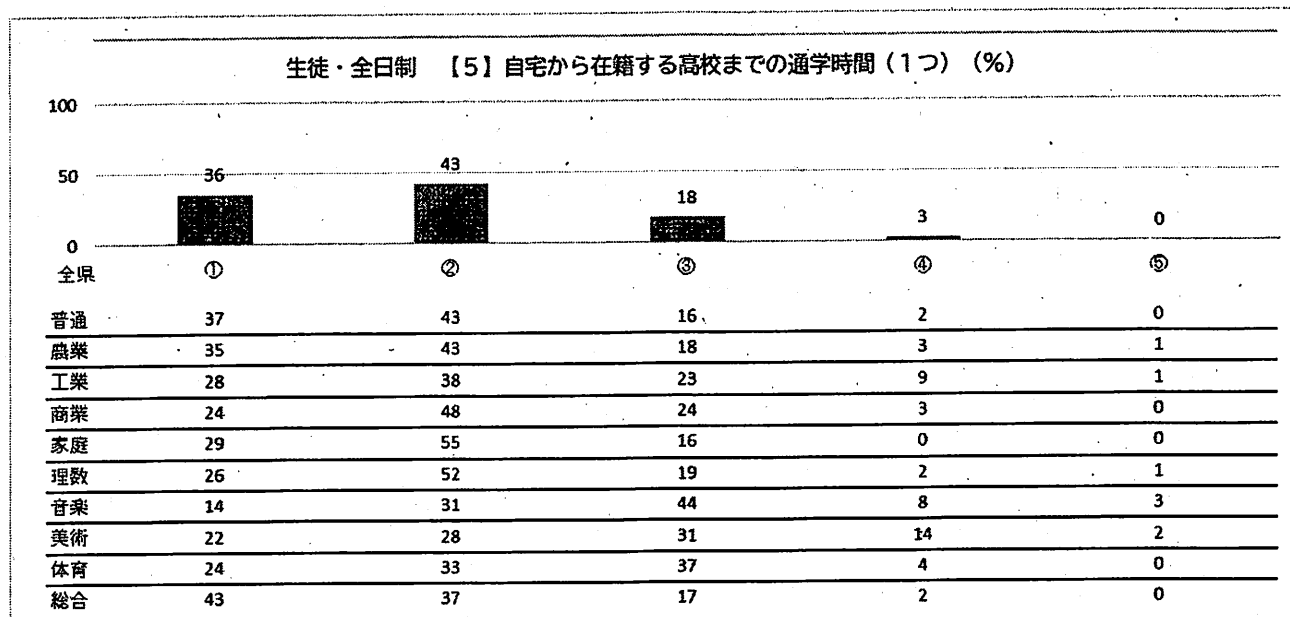
※最も「①授業」の割合が最も高いのは家庭(57%)

※農業：「⑦友人や先輩との関係(42%)」の割合が高い。

※音楽：「⑤学校の施設・設備(89%)」の割合が高い。

【5】あなたの自宅から在籍する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
 ④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上



<全日制>

○79%の生徒が1時間未満(①+②)の通学時間であり、その中でも「②30分以上1時間未満(43%)」と回答した生徒が最も多い。

※音楽・美術・体育：「③1時間以上1時間30分未満」の割合が最も高い。
 (音44%・美31%・体37%)

※総合：「①30分未満(43%)」の割合が最も高い。

<定時制>

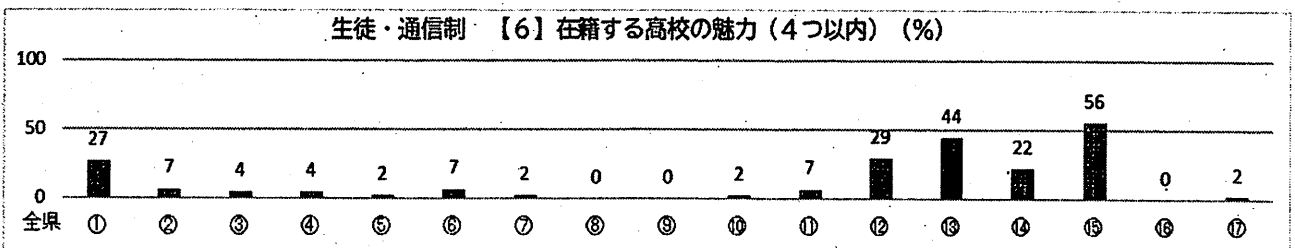
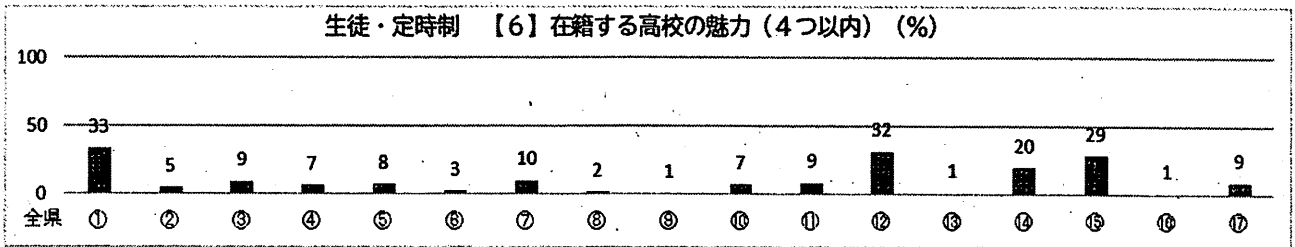
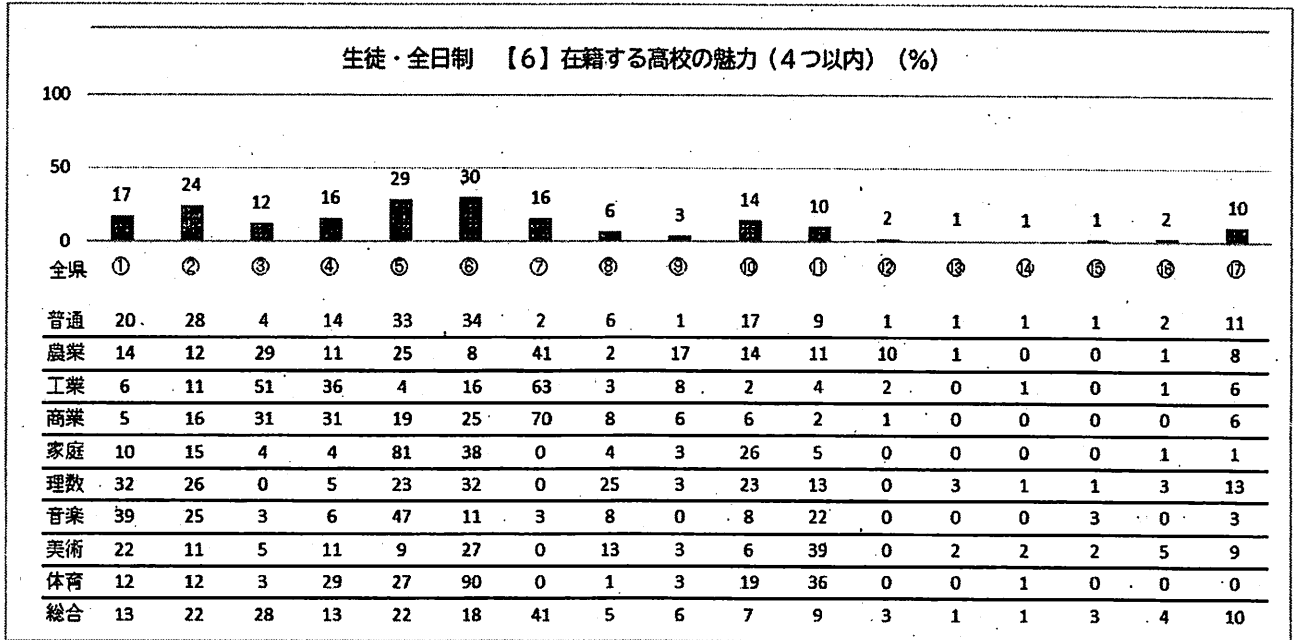
○77%の生徒が1時間未満(①+②)の通学時間であり、その中でも「②30分以上1時間未満(44%)」と回答した生徒が最も多い。

<通信制>

○「③1時間以上1時間30分未満(38%)」と回答した生徒が最も多い。

【6】現在、あなたの在籍する高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実(少人数授業、補習等)
- ②進学に向けた指導
- ③就職に向けた指導
- ④生活面の規律(あいさつなど)
- ⑤学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等)
- ⑥部活動
- ⑦資格取得や検定合格
- ⑧大学・短期大学との連携
- ⑨地域や企業との連携
- ⑩校風やイメージ
- ⑪学校の施設・設備
- ⑫働きながら学べる
- ⑬自宅での学習を中心として学べる
- ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
- ⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる
- ⑯魅力はない



<全日制>

- 「⑥部活動(30%)」や「⑤学校行事(29%)」に魅力を感じている生徒が多い。
- ※農業・工業・商業・総合：「⑦資格取得や検定合格(農41%・工63%・商70%・総41%)」と「③就職に向けた指導(農29%・工51%・商31%・総28%)」の割合が高い。

<定時制>

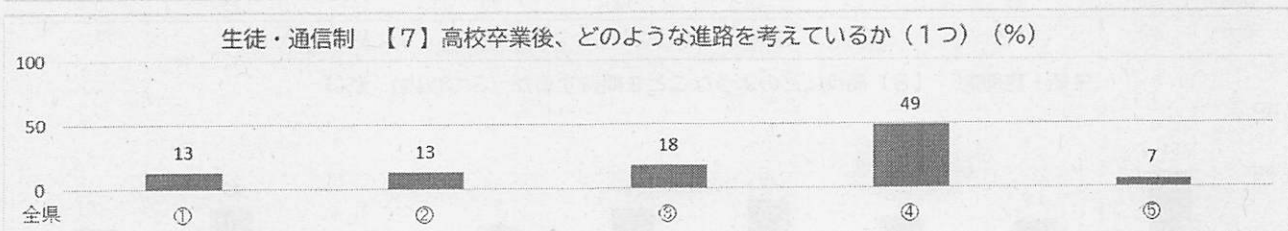
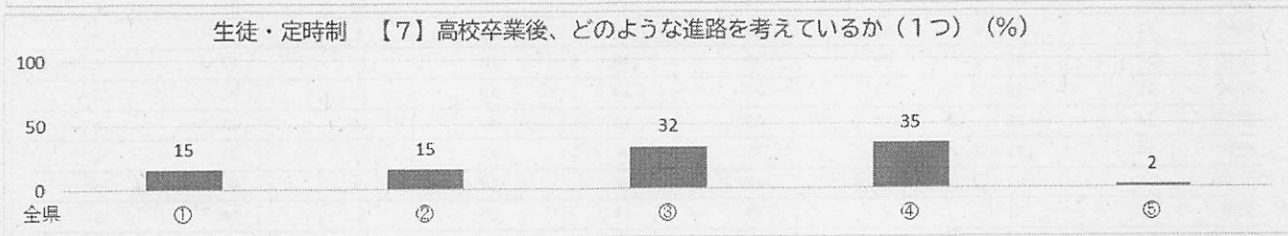
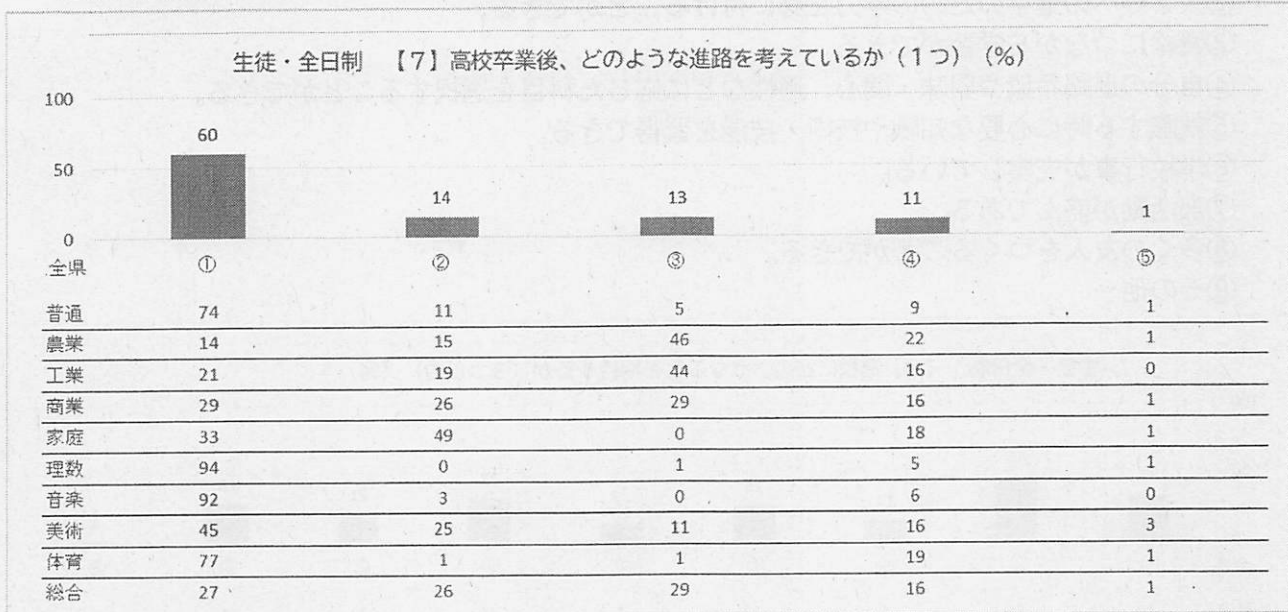
- 「①学習指導の充実(33%)」や「⑫働きながら学べる(32%)」ことに魅力を感じている生徒が多い。

<通信制>

- 「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(56%)」ことに魅力を感じている生徒が多い。

【7】あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他



<全日制>

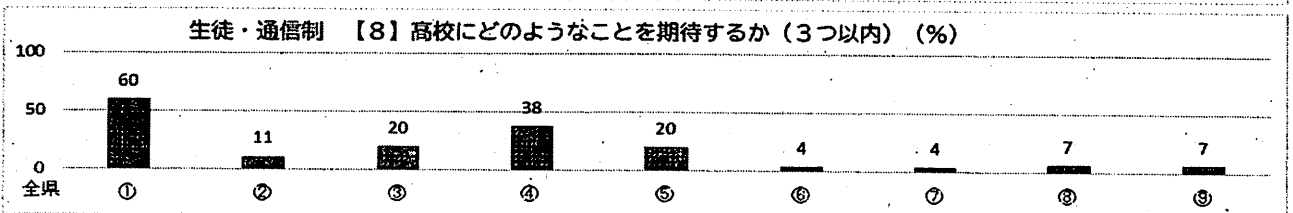
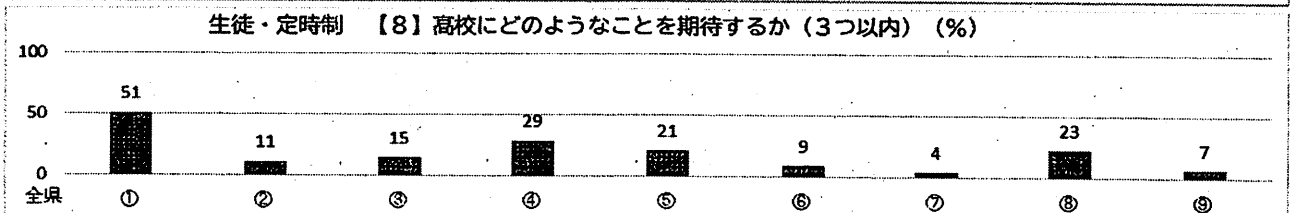
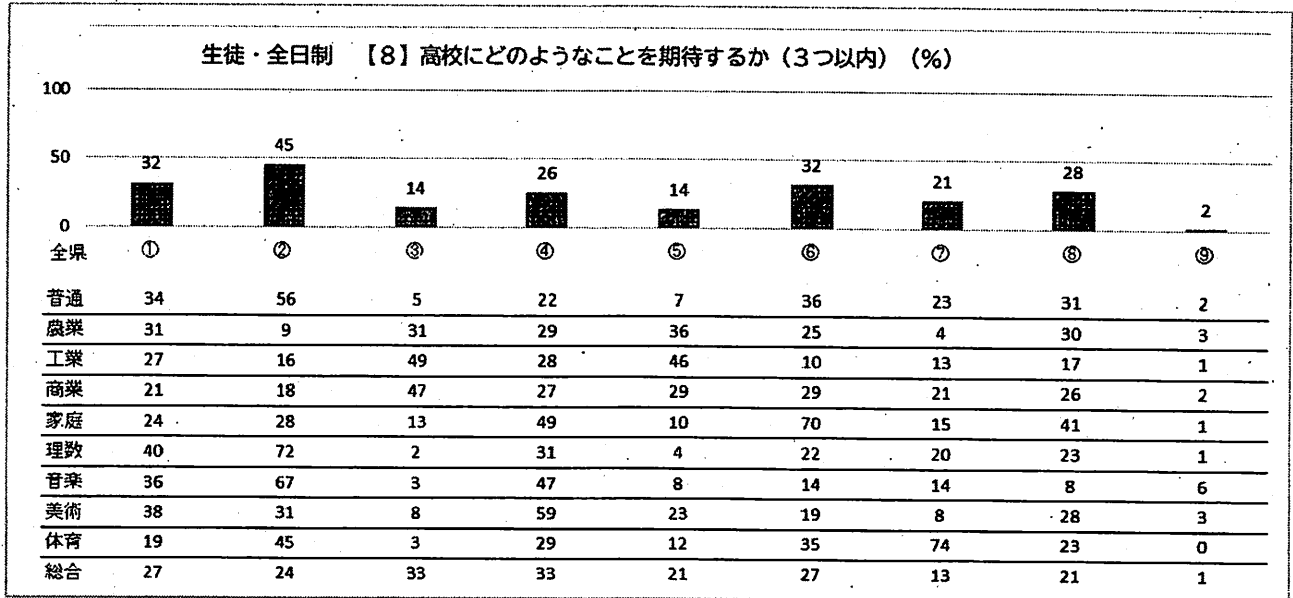
- 「①大学・短期大学」への進学を考えている生徒が最も多い(60%)。
- ※普通科系：「①大学・短期大学」の割合が高い(理94%・音92%・体77%・普74%)。
- ※職業系：「③就職」の割合が高い(農46%・工44%・商29%・総29%)。

<定時制・通信制>

- 「④まだ考えていない」と回答した生徒が多い(定35%・通49%)。

【8】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



<全日制>

- 「①基礎的・基本的な学力(32%)」から「②大学等への進学のための学力(45%)」を身に付けたいと考えている生徒が多い。
- 「⑥学校行事が充実している(32%)」と回答した生徒も多い。
 ※農業・工業・商業・総合：「③資格につながる学習ができる(農31%・工49%・商47%・総33%)」や「⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる(農36%・工46%・商29%・総21%)」の割合が高い。
 ※体育：「⑦部活動が盛んである(74%)」の割合が高い。

<定時制・通信制>

- 「①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる」と回答した生徒が多い(定51%・通60%)。

【9】 これからの滋賀の県立高校又はあなたの在籍する学校が、さらに魅力と活力ある学校になるためには何が必要だと思いますか。書いてください。(記述式)

○主な意見

<施設・設備等について>

- ・施設、設備が整っており、教室やトイレなどがきれいな学校。
- ・校舎をリニューアルしてほしい。
- ・通信環境が整備された学校。
- ・食堂や売店がある学校。
- ・自習室を設置してほしい。

<学習について>

- ・選択科目を増やしてほしい。
- ・少人数指導を充実してほしい。
- ・丁寧で分かりやすい授業。
- ・大学に進学するための力を身に付けることができる授業。
- ・大学受験について丁寧にアドバイスなどをもらいたい。
- ・日常的に補習等の時間を設け、学習に不安を抱える人が安心して授業を受けられるようにする。
- ・資格を取る勉強を増やしてほしい。
- ・専門知識をより深く学べるようにしてほしい。
- ・多様な専門学科をつくる。
- ・リモート授業が、コロナ休校中に数回行われた。分かり易く便利だったので、復習用や補足用に導入してほしい。インターネットを活用した学習を増やしてほしい。
- ・タブレットでの学習を推進してほしい。
- ・他の学校とは違う独特な授業や行事があればいいと思う。

<部活動・学校行事等の学校生活について>

- ・部活動や学校行事が充実した学校。
- ・部活動の種類を増やしてほしい。強い部活動がある。
- ・勉強と部活動の両立ができるように、部活動の練習時間を適切に設定してほしい。
- ・文化祭や体育祭では、他校や地域の子どもたちを呼んで盛り上げる。
- ・高校生活の中で将来のことをじっくり考えたい。
- ・地域や他校との交流を深める。
- ・いじめがなく楽しい学校。
- ・先生と生徒の関わりがもっと増えて、お互いの信頼が高まればいいと思う。

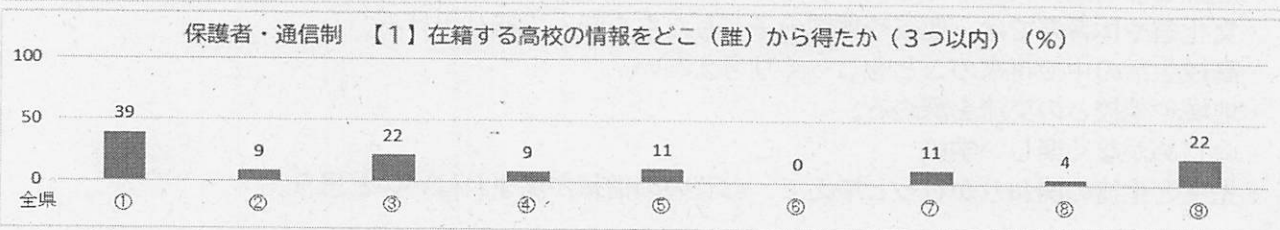
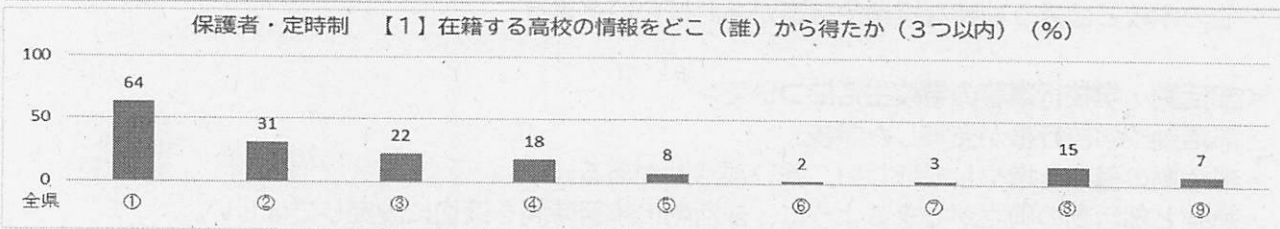
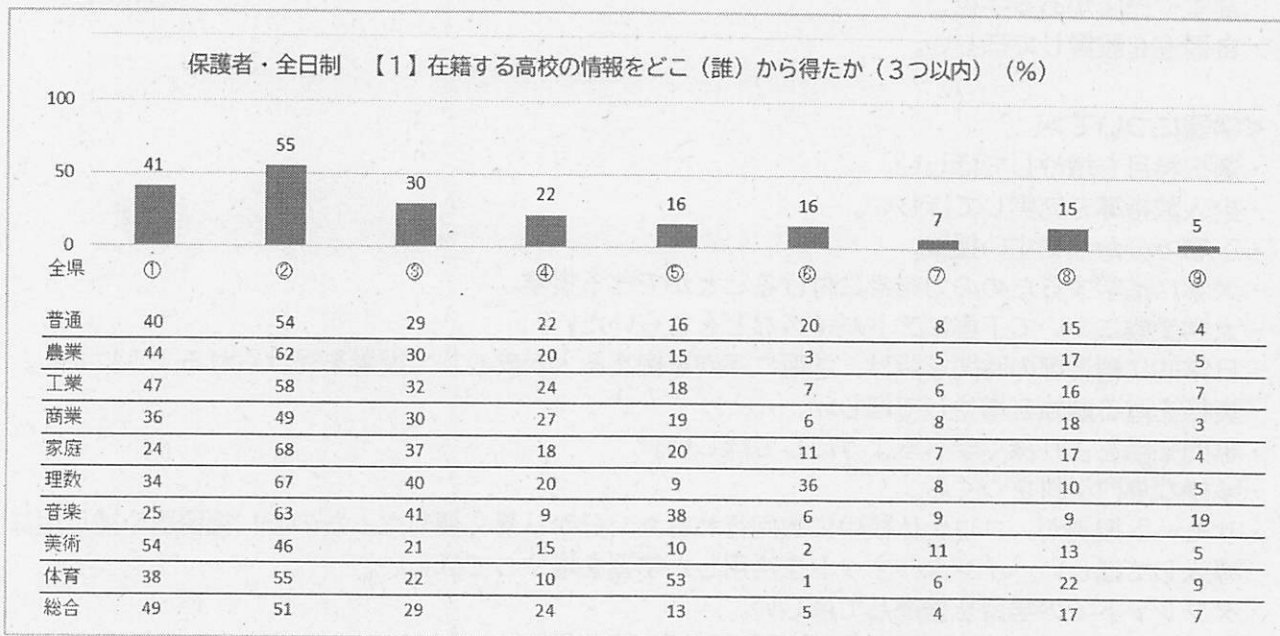
<その他>

- ・それぞれの個性を発揮できる学校。
- ・規律を守り挨拶ができる学校。
- ・時代に合わせた校則にする。理解できない校則は廃止する。
- ・アルバイトを認めてほしい。
- ・スマホを自由に使えるようにしてほしい。
- ・かわいい制服にする。
- ・制服だけでは体温調整が難しいので、パーカーやセーター等の重ね着を認めてほしい。
- ・生徒の意見に耳を傾けてほしい。
- ・電車の本数を増やしてほしい。
- ・学校の良さや特徴を積極的に宣伝して、県内の生徒により多く伝えてほしい。
- ・ホームページを見やすくする。 等

高等学校 保護者アンケート結果

【1】あなたは、お子様が入学する前、お子様の在籍高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談
- ②高校での体験入学、学校説明会
- ③高校のホームページ、パンフレット
- ④家族・親戚
- ⑤お子様の友人・先輩
- ⑥学習塾
- ⑦インターネット（高校のホームページ以外の情報）
- ⑧お子様本人
- ⑨その他



<全日制>

○「②高校での体験入学、学校説明会(55%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多く、「①中学校の先生や中学校での進路相談(41%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

※理数：「⑥学習塾(36%)」の割合が、他学科と比べて高い。

※体育：「⑤お子様の友人・先輩(53%)」の割合が、他学科と比べて高い。

<定時制>

○「①中学校の先生や中学校での進路相談(64%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多く、「②高校での体験入学や学校説明会(31%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

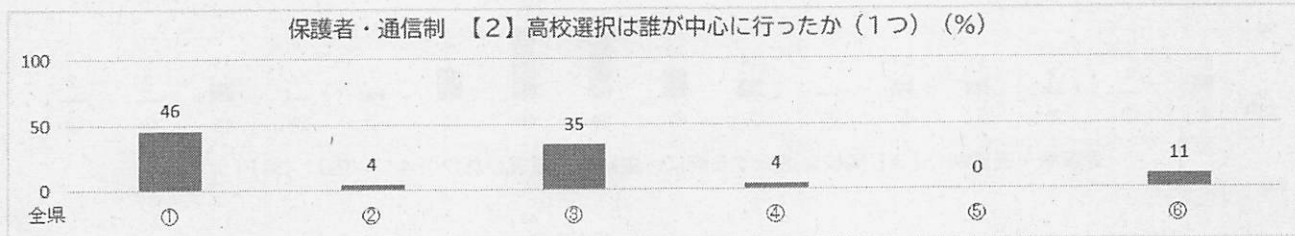
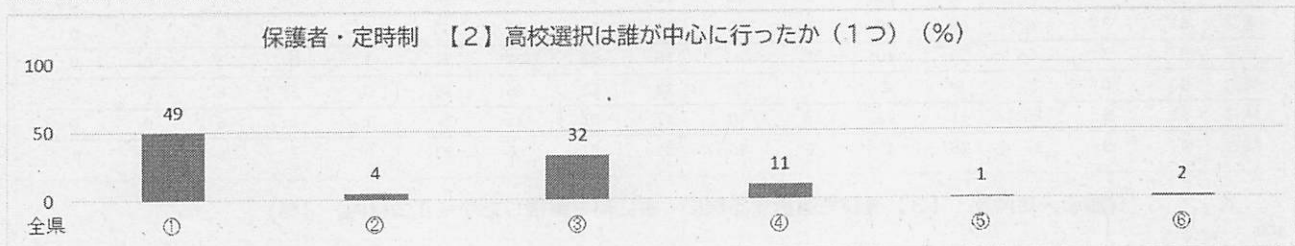
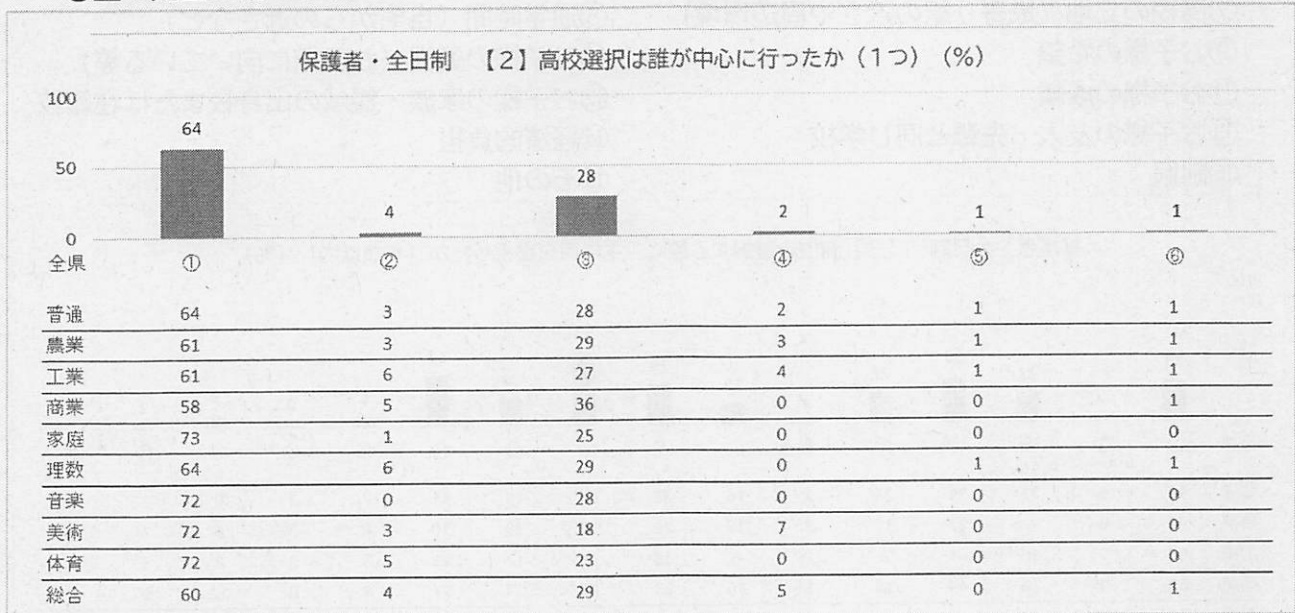
<通信制>

○「①中学校の先生や中学校での進路相談(39%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多い。

○全日制・定時制と異なり、「②高校での体験入学、学校説明会(9%)」から情報を得ている保護者は少ない。

【2】 お子様の在籍する高校の選択は誰が中心になって行いましたか。最もあてはまるものを次の中から1つ選んでください。

- ①子どもの希望を尊重した
- ②親が勧めた
- ③子どもと親でよく相談した
- ④中学校の担任に勧められた
- ⑤塾の先生に勧められた
- ⑥その他



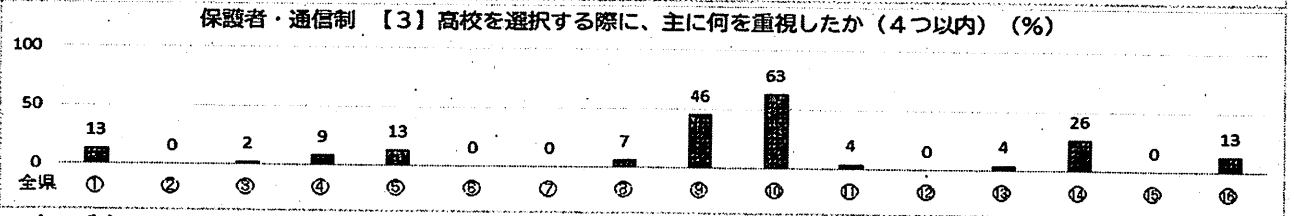
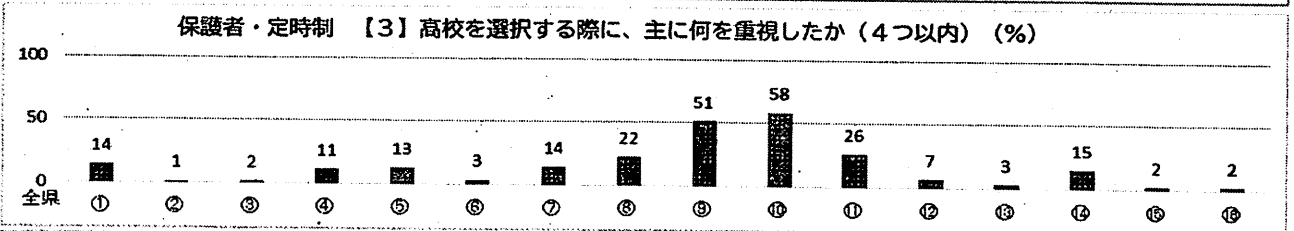
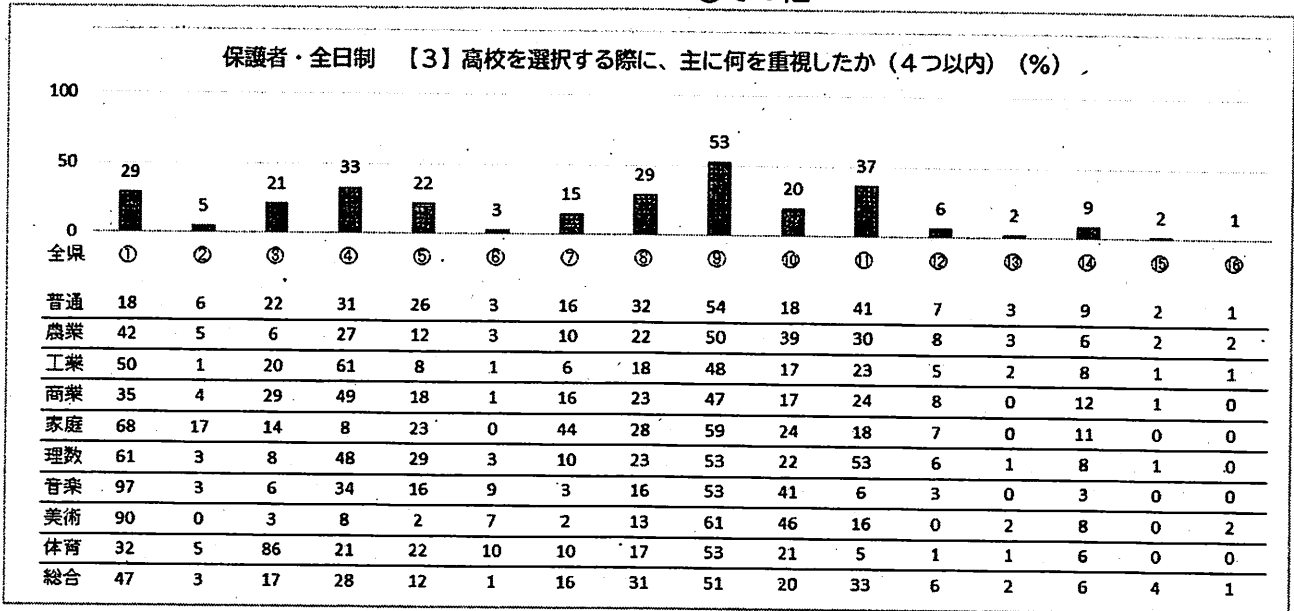
<全日制・定時制・通信制>

○「③子どもと相談(全 28%・定 32%・通 35%)」の上、「①子どもの希望を尊重(全 64%・定 49%・通 46%)」して高校を選択した保護者が多い。

※定時制と全日制美術科では「④中学校の担任に勧められた(定 11%・美 7%)」の割合が、他と比べて若干高い。

【3】あなたは、お子様が高校を選択する際に、主に何を重視しましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容
- ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
- ③部活動
- ④高校卒業後の進路
- ⑤校風やイメージ
- ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ）
- ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境）
- ⑧通学時間（自宅からの近さなど）
- ⑨お子様の希望
- ⑩お子様の適性（お子様に向いている等）
- ⑪お子様の成績
- ⑫お子様の家族・親戚の出身校または在籍校
- ⑬お子様の友人・先輩と同じ学校
- ⑭経済的負担
- ⑮制服
- ⑯その他



<全日制>

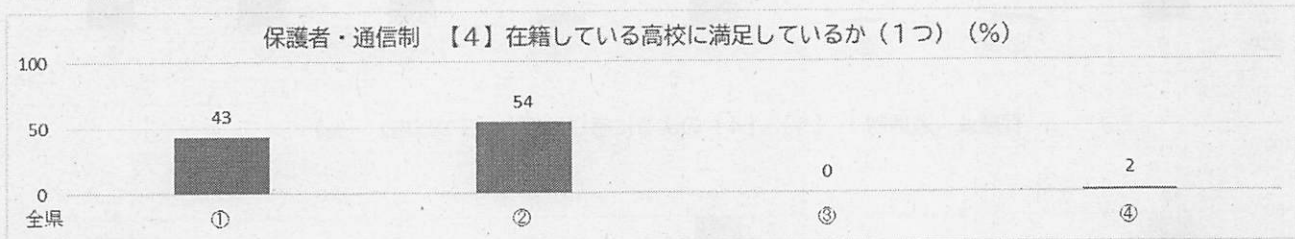
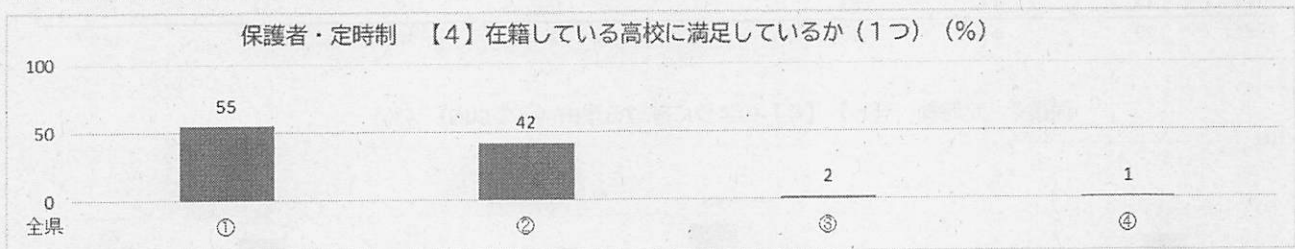
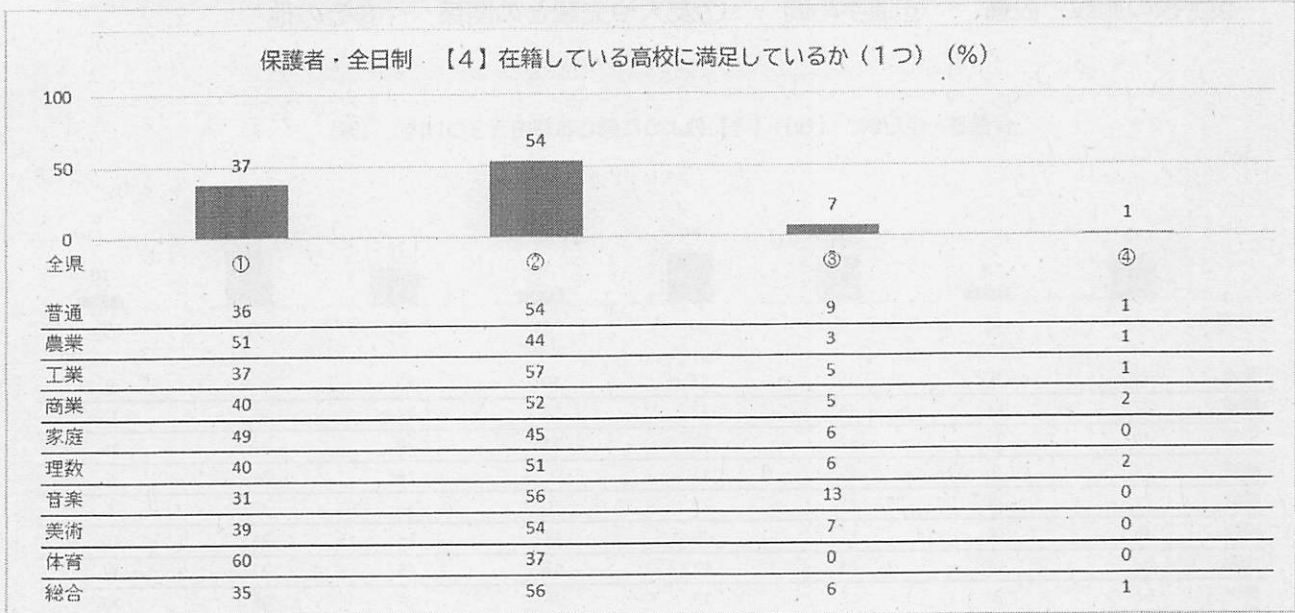
- 「⑨子どもの希望を尊重(53%)」した上で、「⑩子どもの成績(37%)」や「④高校卒業後の進路(33%)」等を踏まえて在籍校を選択した保護者が多い。
- ※普通・理数：「⑩お子様の成績(普41%・理53%)」の割合が、他学科と比べると高い。
- ※音楽：「⑩お子様の成績(6%)」の割合が、他学科と比べると低い。
- ※家庭・理数・音楽・美術：「①学びたい学科、学習内容」の割合が高い。
(家68%・理61%・音97%・美90%)
- ※工業・商業：「④高校卒業後の進路(工61%・商49%)」の割合が高い。
- ※体育：「③部活動(86%)」の割合が高い。

<定時制・通信制>

- 「⑩子どもの適性(定58%・通63%)」や「⑨子どもの希望(定51%・通46%)」を考慮して在籍校を選択した保護者が多い。

【4】 あなたはお子様が在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

①満足している ②ある程度満足している ③どちらかといえば不満である ④不満である



<全日制>

○91%(①+②)の保護者が満足している。

※体育：満足度が最も高い(97%)。

<定時制>

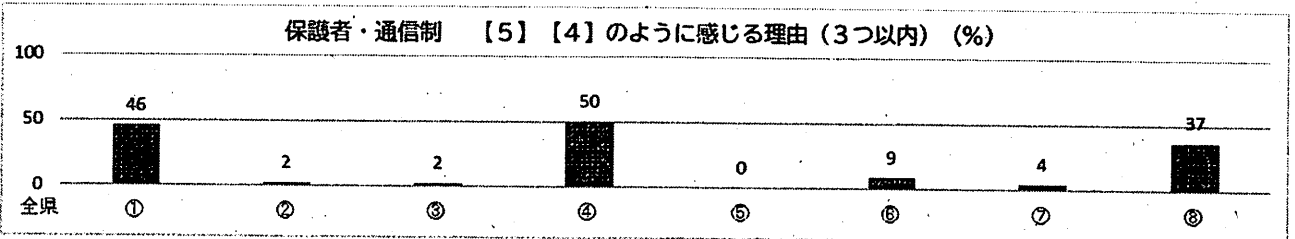
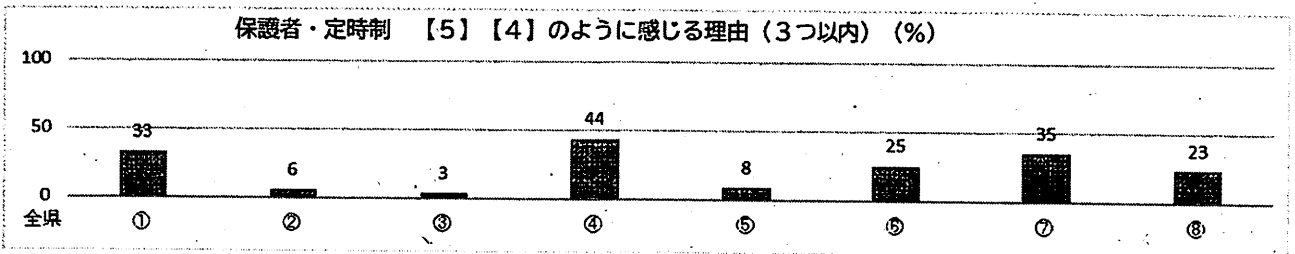
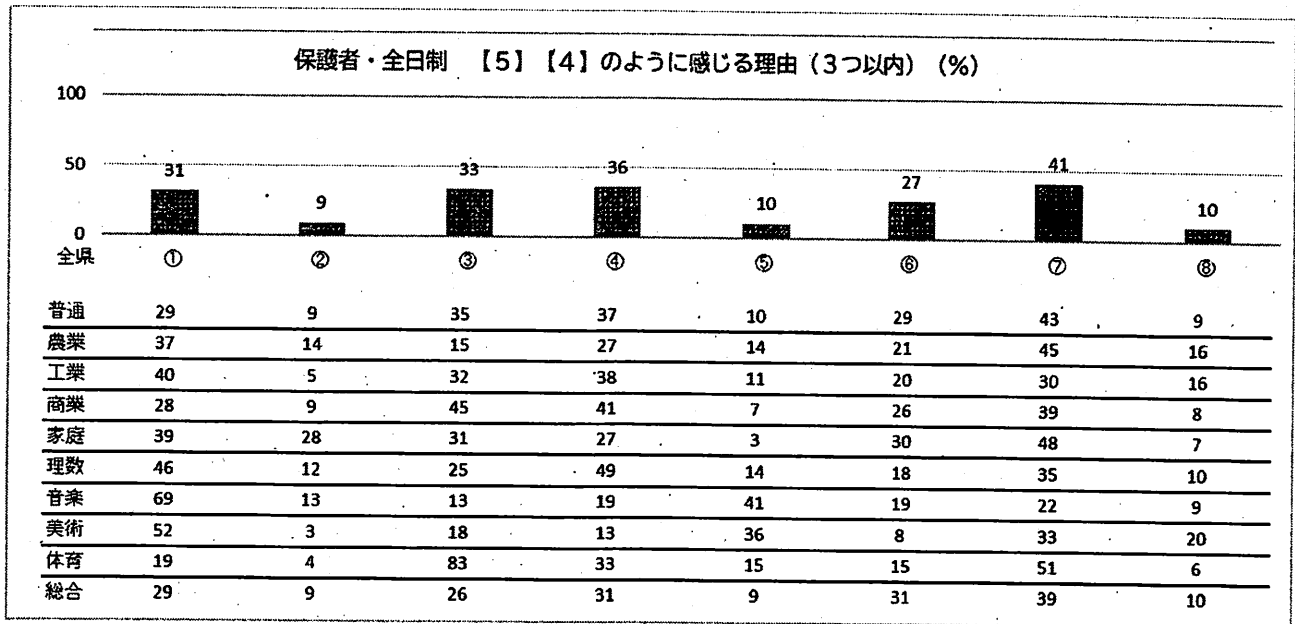
○97%(①+②)の保護者が満足している。

<通信制>

○97%(①+②)の保護者が満足している。

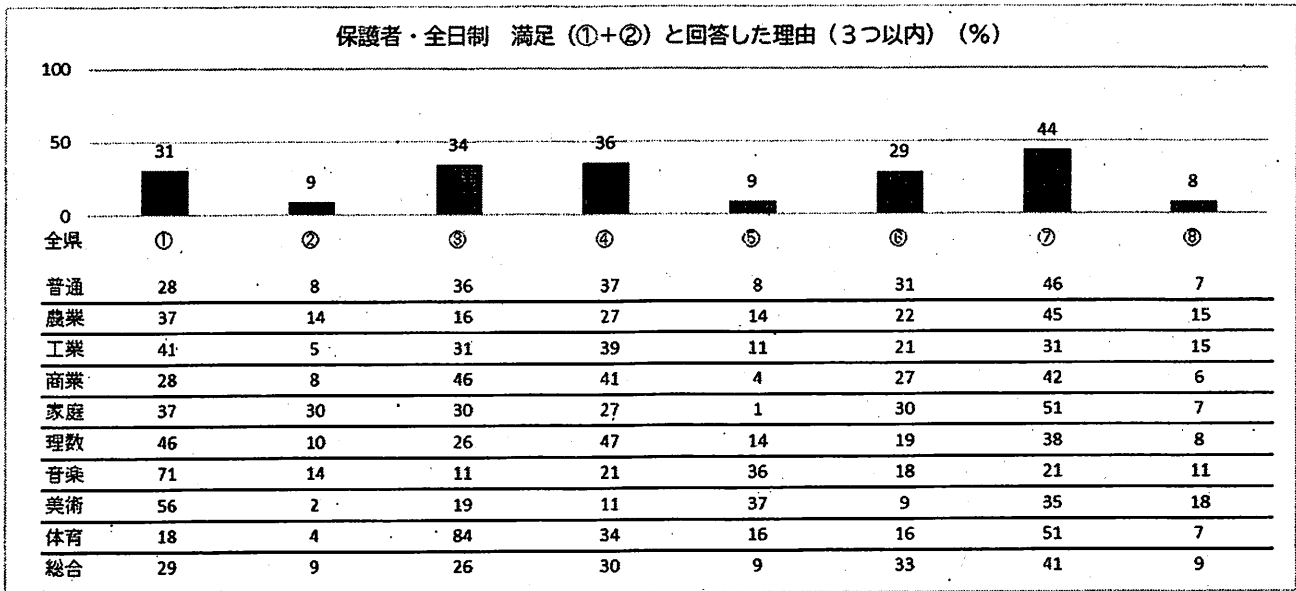
【5】【4】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
 ⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他



<補足>

◇満足 (①+②) と回答した理由 (全日制)



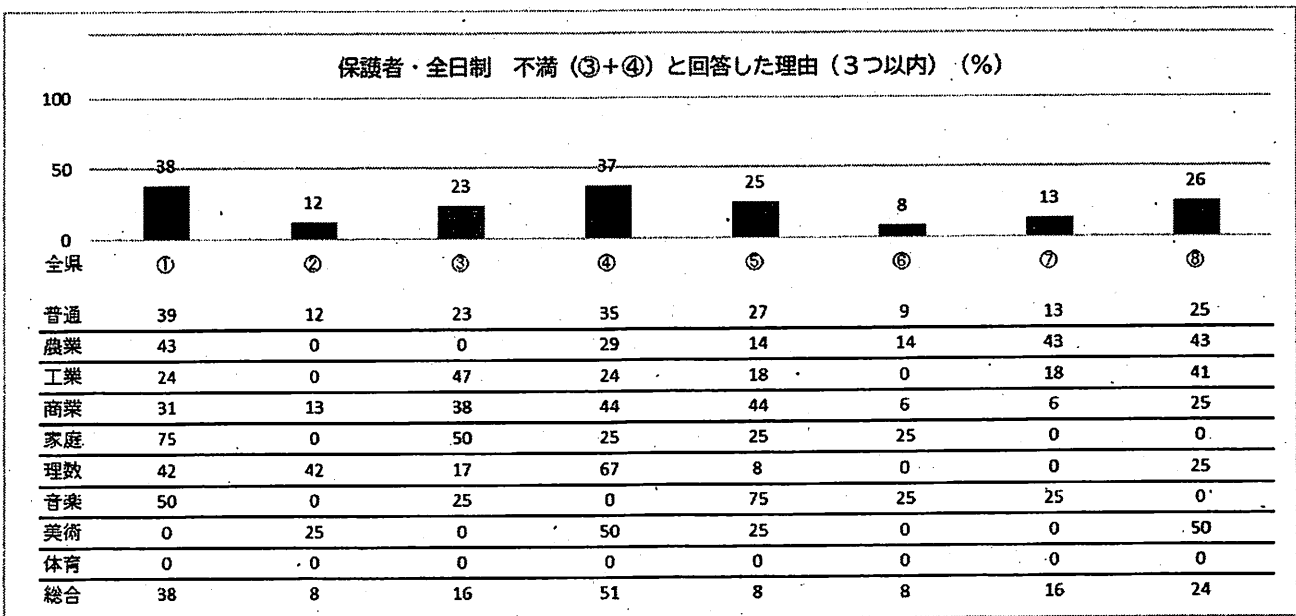
○「⑦友人や先輩との関係(44%)」、「④校風や教育方針(36%)」、「③部活動(34%)」に満足しているという回答が多い。

※工業・理数・音楽・美術：「①授業(工 41%・理 46%・音 71%・美 56%)」の割合が高い。

※体育：「③部活動(84%)」の割合が最も高い。

※その他：「先生が親身になって指導してくれる」等

◇不満 (③+④) と回答した理由 (全日制)



○「①授業(38%)」、「④校風や教育方針(37%)」、「⑤学校の施設・設備(25%)」に不満があるという回答が多い(⑧その他 26%)。

※最も「①授業」の割合が高いのは家庭(75%)

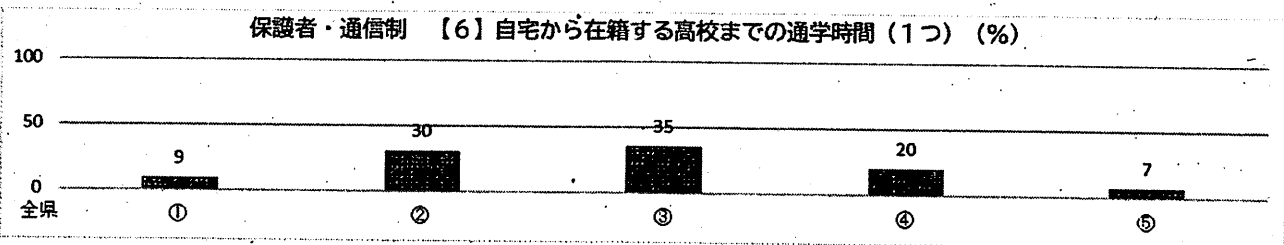
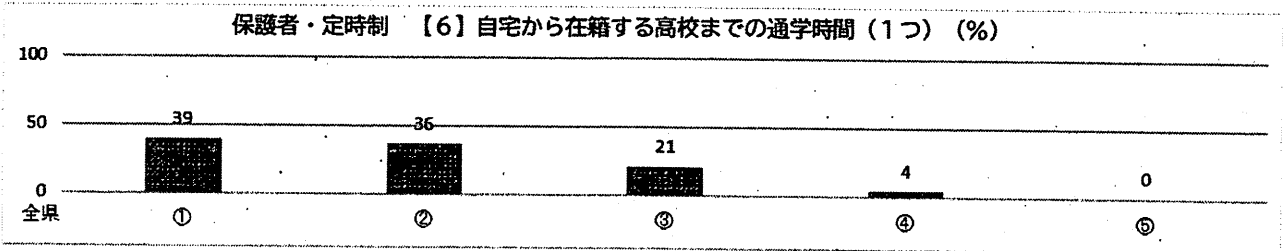
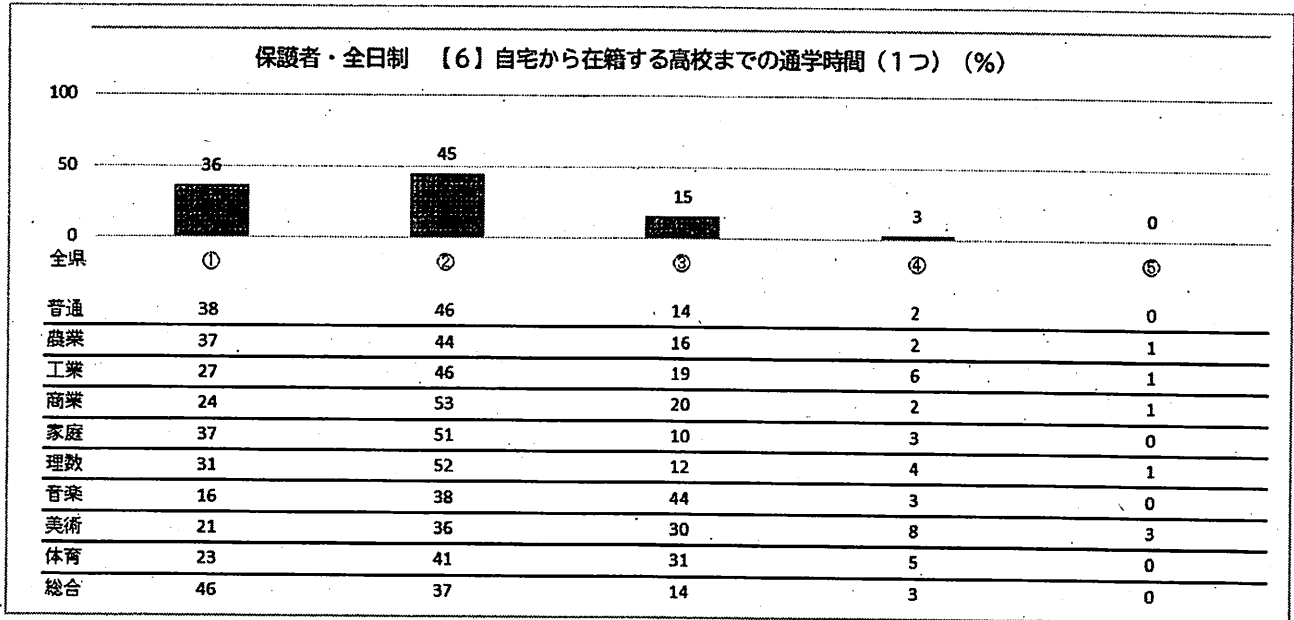
※農業：「⑦友人や先輩との関係(43%)」の割合が高い。

※音楽：「⑤学校の施設・設備(75%)」の割合が高い。

※その他：「適切な指導をしていない先生がいる」等

【6】あなたのお子様が在籍する高校までの通学時間はどれぐらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
 ④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上



<全日制・定時制>

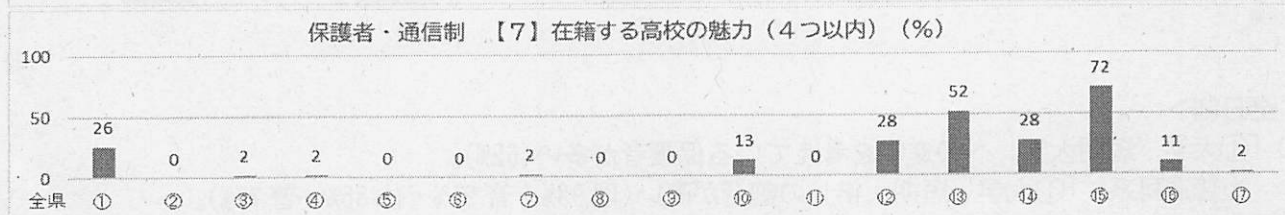
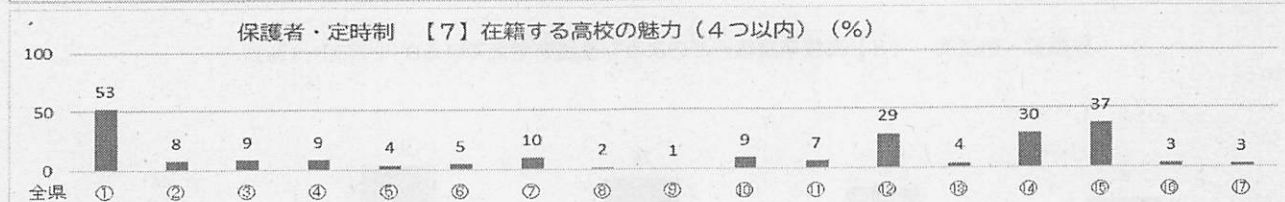
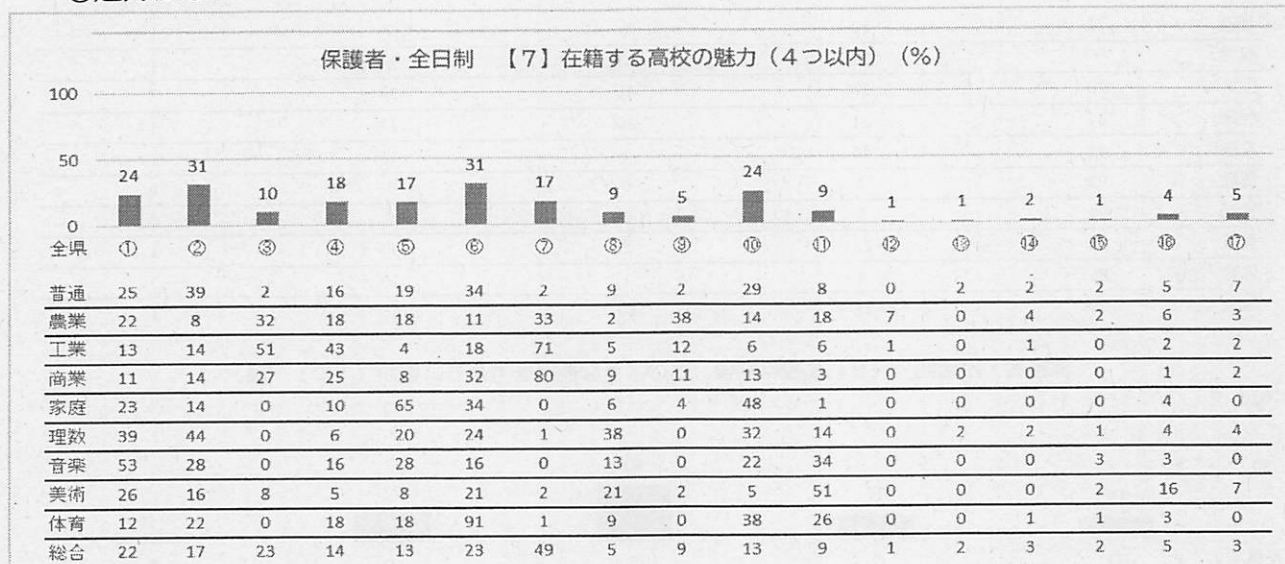
- 「②30分以上1時間未満(全45%・定36%)」と回答した保護者が最も多い。
- ※音楽：「③1時間以上1時間30分未満(44%)」の割合が最も高い。
- ※総合：「①30分未満(46%)」の割合が最も高い。

<通信制>

- 「③1時間以上1時間30分未満(35%)」と回答した保護者が最も多い。

【7】あなたは、現在、お子様の在籍高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実(少人数授業、補習等)
- ②進学に向けた指導
- ③就職に向けた指導
- ④生活面の規律(あいさつなど)
- ⑤学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等)
- ⑥部活動
- ⑦資格取得や検定合格
- ⑧大学・短期大学との連携
- ⑨地域や企業との連携
- ⑩校風やイメージ
- ⑪学校の施設・設備
- ⑫働きながら学べる
- ⑬自宅での学習を中心として学べる
- ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
- ⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる
- ⑯魅力はない
- ⑰その他



<全日制>

- 「②進学に向けた指導(31%)」や「⑥部活動(31%)」に魅力を感じている保護者が多い。
- ※農業：「⑨地域や企業との連携(38%)」の割合が最も高い。
- ※工業・商業・総合：「⑦資格取得や検定合格(工71%・商80%・総49%)」の割合が最も高い。
- ※家庭：「⑤学校行事(65%)」の割合が最も高い。
- ※美術：「⑪学校の施設・設備(51%)」の割合が最も高い。

<定時制>

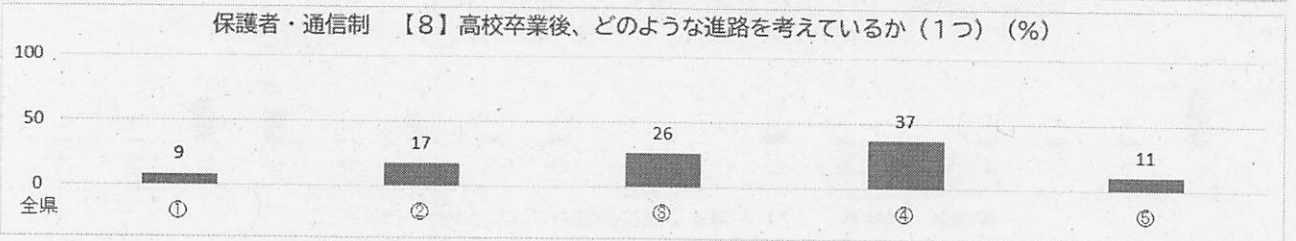
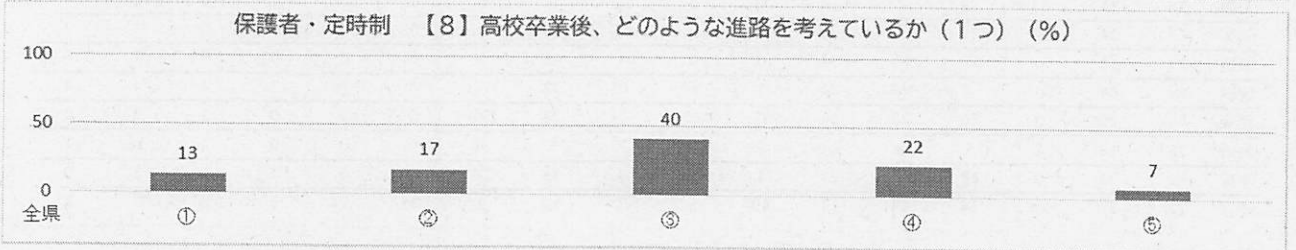
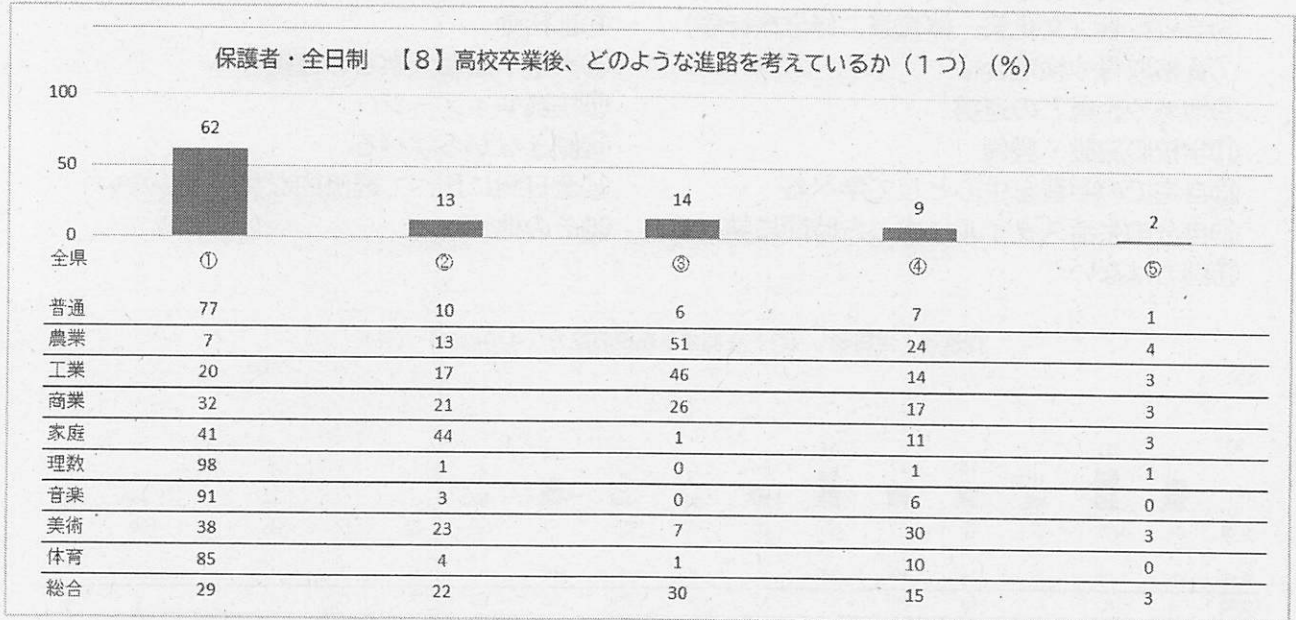
- 「①学習指導の充実(53%)」や「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(37%)」ことに魅力を感じている保護者が多い。

<通信制>

- 「⑬自宅での学習を中心(52%)」に、「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(72%)」ことに魅力を感じている保護者が多い。

【8】あなたは、お子様の高校卒業後の進路について、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他



<全日制>

- 「①大学・短期大学」への進学を考えている保護者が多い(62%)。
 ※普通科系：「①大学・短期大学」の割合が高い(理 98%・音 91%・体 85%・普 77%)。
 ※職業系：「③就職(農 51%・工 46%・総 30%・商 26%)」の割合が高い。

<定時制>

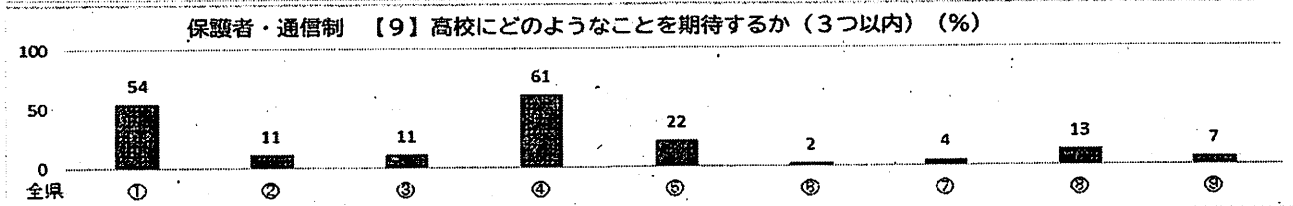
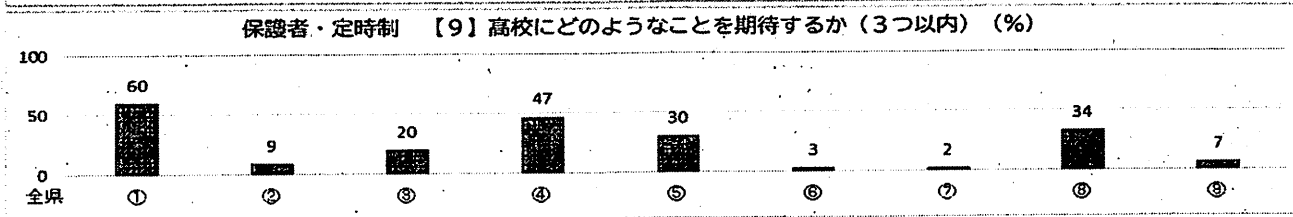
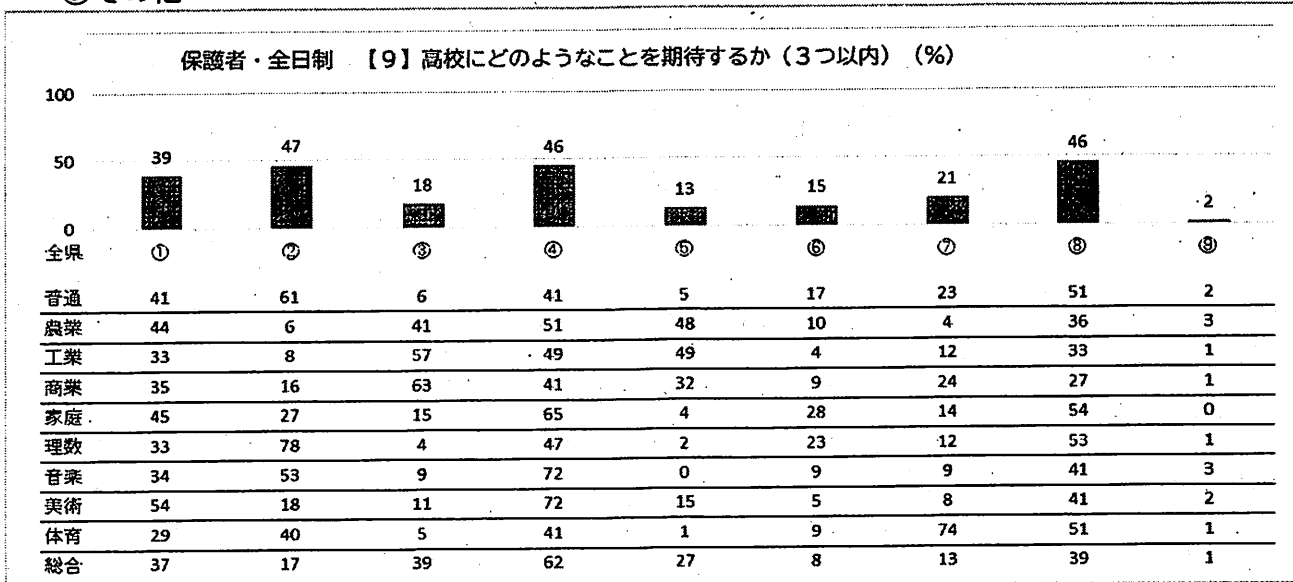
- 「③就職」を考えている保護者が多い(40%)。

<通信制>

- 「④まだ考えていない」と回答した保護者が多い(37%)。

【9】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



<全日制>

- 「②大学等への進学のための学力を身に付けることができる(47%)」や、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(46%)」と回答した保護者が多い。
- また、「⑧多くの友人をつくることできる(46%)」の回答も多いことから、交友関係を広めてほしいと考えている保護者も多い。
- ※農業・工業・商業：「③資格につながる学習ができる(農41%・工57%・商63%)」、「⑤就職するときに必要な知識や技術・技能を習得できる(農48%・工49%・商32%)」の割合が高い。
- ※体育：「⑦部活動が盛んである(74%)」の割合が最も高い。

<定時制・通信制>

- 「①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる(定60%・通54%)」や、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(定47%・通61%)」と回答した保護者が多い。

【10】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思ふことがあれば書いてください。

○主な意見

<施設・設備等について>

- ・学校の校舎、施設が老朽化している。施設（教室、トイレ、ICT環境等）を、学校間で格差なくきれいに整備してほしい。
- ・遠方からの通学者のために、学生寮をつくってほしい。
- ・図書館内に学習スペースを設置してほしい。

<学習について>

- ・学習塾に行かなくても、大学進学のための高い学力が身に付くようにしてほしい。
- ・一般的な教養を普通科、専門学科関係なく身に付くように指導してほしい。
- ・世の中にはこういう職業があり、その職に就くのに必要な進路や資格、学習等について、自分の進む道を適切に指導してもらえれば、高校は魅力と活力を見出すことができると思う。
- ・子どもたちが自ら学び、生きる力をつけていけるような学ぶ力を育ててほしい。
- ・発達に課題を抱える生徒への対応を充実させてほしい。
- ・普通科高校が多いので、専門学科や総合学科の高校を増やしてほしい。
- ・他校と連携した学び。
- ・学校は勉強するところだが、社会に対応できるための準備期間、訓練の場でもあってほしい。
- ・グローバルな時代に対応できる人材の育成。
- ・オンライン授業や遠隔授業には力を入れてほしい。

<部活動・学校行事等の学校生活について>

- ・部活動は、一部の学校、一部の競技だけが熱心に活動している。教員の働き方改革も大切だが、すべての県立高校が積極的に部活動に取り組んでほしい。
- ・学校行事を充実させてほしい。体育祭や文化祭などの学校行事を、学校外の生徒や保護者、地域住民の方々などが参加できると盛り上がる。また、子どもたちの思い出の1つにもなる。
- ・好きなことをとことんやらせたいが、自分では選ばないであろう勉強や体験を与えて、新しい発見をしてもらいたい。
- ・学習面での充実はもちろんのこと、生徒の生きる力をつけていくためには、学校でしかできない様な人と人とのつながりを大切にするため、部活動や生徒会活動、学級活動などを充実させることが必要だと思います。人と人との関わりから様々なことを学ぶのが学校です。学習面だけなら塾でもできますが、学校でしか学べないことがたくさんあるはずだと思います。
- ・学力向上だけではなく、人間性を高める、人として正しい考え方等を学ぶ場として高校があればよいと思う。
- ・地域の教育資源や人々と関わる学びの中に、自己や地域の課題を発見し、仲間と協力して解決のための方策を考え、実行に移し、その結果を再度見直して次の取り組みにつなげていく。そのような体験を通して、自らの将来を見つけることができる魅力ある学校をつくってほしい。
- ・やがて社会に出て働くために、地域と連携して生きていくことの大切さを学ばせてほしい。
- ・郷土を愛し、地域で活躍する人材の育成。
- ・地元企業との交流を持つべきだと思う。
- ・社会へ出るための自立する力をつけてほしい。
- ・社会に出て仕事をしていく上で仕事は一人では出来るものではないので、周りの人とうまくコミュニケーションを取れる人材を育成してほしい。

<その他>

- ・教員の資質を向上させてほしい。
- ・各高校のホームページを定期的に更新して情報発信する。

等

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、だれが書いたかは分からないようにしますので、あなたが選んでいることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選たくし中の「その他」を選ぶ場合は()内に具体的に書いてください。高等学校以外の進路(特別支援学校、高等専門学校、就職、専門学校等)を考えている場合は、答えられるは人間の問いのみを回答してください。ご協力をお願いします。

滋賀県教育委員会

[1] あなたの学年を次の中から1つ選んでください。(義務教育学校の7年生は①、8年生は②をマークしてください)

- ①1年生 ②2年生

[2] あなたの中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③彦根市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市
⑦栗東市 ⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市
⑬米原市 ⑭日野町 ⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町
⑲多賀町

[3] あなたは高校の情報を主にどこ(だれ)から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親せき
⑤友人・先輩 ⑥学習じゅく
⑦インターネット(高校のホームページ以外) ⑧その他

[4] 現時点で進学したいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ① 県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他

[5] あなたは進学したい高校を選ぶとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行など)
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校のし設・設備(新しさや広さ)
⑦高校の立地(最寄り駅の近さや周辺かん境) ⑧自分の適性(自分に向いている等)
⑨自分の成績 ⑩通学時間(自宅からの近さなど)
⑪家族・親せきの出身校または在せき校 ⑫友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

[6] あなたは高校に通学する場合、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

[7] あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

[8] あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基底的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選たくすることができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事がじゅう実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることことができる。
⑨その他

[9] これからの滋賀の県立高校又はあなたが行きたいと思う学校が、さらに魅力ある学校になるためには何が必要だと思いますか。書いてください。(記述)

(アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。)

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、誰が書いたかは分からないようにしますので、思っておられることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は()内に具体的に書いてください。高等学校以外の進路(特別支援学校、高等専門学校、就職、専修学校等)を考えている場合は、答えられる範囲の問いのみを回答してください。ご協力をお願いします。

滋賀県教育委員会

- 【1】あなたのお子様の学年を次の中から1つ選んでください。(義務教育学校の7年生は①、8年生は②をマークしてください。)

①1年生 ②2年生

- 【2】あなたのお子様の中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市
⑦栗東市 ⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市
⑬米原市 ⑭日野町 ⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町
⑲多賀町

- 【3】あなたは高校の情報を主にどこ(誰)から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④お子様本人
⑤家族・親戚 ⑥お子様の友人・先輩
⑦学習塾 ⑧インターネット(高校のホームページ以外の情報)
⑨その他

- 【4】現時点でお子様に進学させたいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他

- 【5】あなたはお子様が高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

①学びたい学科、学習内容 ②学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行など)
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備(新しさや広さ)
⑦高校の立地(最寄り駅の近さや周辺環境) ⑧お子様の適性(お子様に向いている等)
⑨お子様の成績 ⑩通学時間(自宅からの近さなど)
⑪お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 ⑫お子様の友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

- 【6】お子様の進学したい高校について、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

- 【7】あなたは、お子様が高校に進学した場合、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。次の中から1つ選んでください。

①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

- 【8】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることできる。
⑨その他

- 【9】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思うことがあれば書いてください。(記述)

※別添(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ(案)を参考にお答えください。

(アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。)



魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、だれか書いたかは分からないようにしますので、あなたが思っていることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は()内に具体的に書いてください。ご協力をお願いします。

【1】 あなたの学年を次の中から1つ選んでください。

- ①1年生 ②2年生

【2】 あなたの出身中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市 ⑦栗東市
⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市 ⑬米原市 ⑭日野町
⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰殷郷町 ⑱甲良町 ⑲多賀町 ⑳県外

【3】 高校に入学する前、あなたは在籍する高校の情報を主にどこ(誰)から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親戚
⑤友人・先輩 ⑥学習塾
⑦インターネット(高校のホームページ以外) ⑧その他

【4】 高校に入学する前、あなたの在籍する高校を選択する際に、主に何を基準にしましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行など)
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備(新しさや広さ)
⑦高校の立地(最寄り駅の近さや周辺環境) ⑧自分の適性(自分に向いている等)
⑨自分の成績 ⑩通学時間(自宅からの近さなど)
⑪家族・親戚の出身校または在籍校 ⑫友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

【5】 あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

- ①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である

【6】 【5】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他

【7】 あなたの自宅から在籍する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上

【8】 現在、あなたの在籍する高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実(少人数授業、補習等) ②進学に向けた指導
③就職に向けた指導 ④生活面の規律(あいさつなど)
⑤学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等) ⑥部活動
⑦資格取得や検定合格 ⑧大学・短期大学との連携
⑨地域や企業との連携 ⑩校風やイメージ
⑪学校の施設・設備 ⑫働きながら学べる
⑬自宅での学習を中心として学べる ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる ⑯その他
⑰魅力はない

【9】 あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校 各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【10】 あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることできる。
⑨その他

【11】 これからの滋賀の県立高校又はあなたの在籍する学校が、さらに魅力と活力ある学校になるためには何が重要だと思いますか。書いてください。(記述式)

(アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。)

高校生保護者用

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、誰が書いたかは分からないようにしますので、思っておられることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は（ ）内に具体的に書いてください。ご協力をお願いします。

- 【1】あなたのお子様の学年を次の中から1つ選んでください。
①1年生 ②2年生
- 【2】あなたのお子様の出身中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。
①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市 ⑦栗東市
⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市 ⑬米原市 ⑭日野町
⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町 ⑲多賀町 ⑳県外
- 【3】あなたは、お子様が入学する前、お子様の在籍高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。
①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親戚
⑤お子様の友人・先輩 ⑥学習塾
⑦インターネット（高校のホームページ以外の情報） ⑧お子様本人
⑨その他
- 【4】お子様の在籍する高校の選択は誰が中心になって行いましたか。最もあてはまるものを次の中から1つ選んでください。
①子どもの希望を尊重した ②親が勧めた
③子供と親でよく相談した ④中学校の担任に勧められた
⑤塾の先生に勧められた ⑥その他
- 【5】あなたは、お子様が高校を選択する際に、主に何を重視しましたか。次の中から4つ以内で選んでください。
①学びたい学科、学習内容 ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備（新しきや広さ）
⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） ⑧通学時間（自宅からの近さなど）
⑨お子様の希望 ⑩お子様の適性（お子様に向いている等）
⑪お子様の成績 ⑫お子様の家族・親戚の出身校または在籍校
⑬お子様の友人・先輩と同じ学校 ⑭経済的負担
⑮制服 ⑯その他
- 【6】あなたはお子様が在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。
①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である
- 【7】【6】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。
①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他

【8】あなたのお子様が生じる高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上

【9】あなたは、現在、お子様の在籍高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実（少人数授業、補習等） ②進学に向けた指導
③就職に向けた指導 ④生活面の規律（あいさつなど）
⑤学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行等） ⑥部活動
⑦資格取得や検定合格 ⑧大学・短期大学との連携
⑨地域や企業との連携 ⑩校風やイメージ
⑪学校の施設・設備 ⑫働きながら学べる
⑬自宅での学習を中心として学べる ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる ⑯その他
⑰魅力はない

【10】あなたは、お子様の高校卒業後の進路について、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【11】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることができる。
⑨その他

【12】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思うことがあれば書いてください。

※別添（仮）『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ（案）を参考にお答えください。

（アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。）

(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ(案)

- 背景** ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
- 策定趣旨** ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県の視野で基本的な考え方を示す
- 対象期間** ○令和4年度から令和13年度の10年間

- (参考)「これからの県立高等学校の在り方検討」の全体像
- 令和2年度 滋賀県立高等学校在り方検討委員会設置、審議(～令和3年度)
①現行滋賀県立高等学校再編計画(～令和3年度)の検証 ②これからの県立高等学校の在り方について検討
※ 産業教育に関しては、論点整理のうえで、滋賀県産業教育審議会を設置して審議
※ 高等専門人材育成に関しては、知事部局における議論と連携
- 令和3年度 教育委員会(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』策定
- 令和4年度～ 全県の視野での魅力化の具体策の検討や実施
※ 必要に応じて、地域の関係者等で構成する(仮)地域別協議会を設置し、地域の意見を踏まえて、個別の計画を策定、実施

- これまでの高校改革
主な取組と成果**
- H9～ 総合学科設置(国際情報・長浜北星等)
- H15 県立中高一貫教育校設置
→ 主体的学校選択、特色ある学校づくり
- H18 県立普通科高校通学区域全県一区制
→ 主体的学校選択、特色ある学校づくり
(H28検証)
- H24 県立高校再編計画策定
・統合新校設置(長浜北・彦根西館)
・総合単位制高校設置(能登川)
・職業系専門学科改編(農業・工業)等
- R1 湖西地域の県立高校魅力化方針策定
(高鳥・安曇川学科改編)
- R2 国際バカロレア設置(虎姫)
- <現行再編計画の成果と課題>
- 魅力と活力ある学校づくりが進展
□人口減少地域の更なる魅力化が必要
□計画策定時の地域の理解 等

県立高校をとりまく現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2ピークと比べて現在▲7,000人34%減
- ・15年後は更に ▲1,700人 H2から42%減
- ・特に人口減少地域の学校の活性化
→更なる魅力化が必要

◆社会情勢の変化

- ・少子高齢化、人口減少社会の到来
- ・第4次産業革命
- ・グローバル化
- ・withコロナ、afterコロナと新しい生活様式

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂(令和4年度～)
主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方

- 将来の社会の姿**
- ◇持続可能な社会の実現(SDGsの目標)
 - ◇多様な価値観が尊重される社会
 - ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
 - ◇人口減少と高齢化の更なる進行
 - ◇大規模災害などの発生リスク
 - ◇コロナ禍を経た新しい生活様式の定着 等
- 想像はできるが予測できないことが起こる

- 高校への希望や期待**
- ※今後、アンケート等により把握・充実
- ◆生徒の立場から
- ・新しいことに挑戦し、世界を広げたい
 - ・好きな分野への進学をめざしたい
 - ・部活動や生徒会活動を頑張りたい
 - ・もう一度基礎から学び直したい
 - ・友達と楽しい高校生活を送りたい 等
- ◆保護者の立場から
- ・じっくりと子供の可能性を拡げてやりたい
 - ・やりたいことをとことんやらせたい
 - ・社会で生きるたくましさをつけてほしい 等
- ◆地域社会の視点
- ・地域社会で活躍する人材を育成してほしい
 - ・地域に活気を生み出してほしい 等
- ◆企業の視点
- ・グローバルな時代に対応できる人材、専門性を身につけた人材、業界に必要な人材を送り出してほしい 等
- ◆教職員の立場から
- ・生徒一人ひとりの成長を感じたい
 - ・授業力や指導力を発揮し更に成長したい 等

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の基本理念 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり

育成すべき生徒像	生きる力(自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等)がある	高等学校の役割	生きる力を育む場 ・好奇心や探究心を更に発展させる場 ・「答えを見つける」から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ
-----------------	----------------------------------	----------------	---

魅力化の視点 ◇多様性のある社会、人口減少社会、新しい生活様式への対応を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、持続可能な形で実施する

- 目指す姿** ■高校別 ◆県域全体
- 生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
→◇すべての生徒に自分に高める学びが提供されている
→◇コミュニケーションを通じて深い発見できる学びが提供されている
 - 生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる
→◇グローバル人材や科学技術人材が育成されている
→◇大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
→◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
 - 生徒同士が切磋琢磨し成長できる
→◇学校行事や部活動が活性化している
→◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した空間が提供されている
 - 場所や時間を選ばない学びができる
→◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
 - 生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
→◇地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている
→◇産業界と連携した学びが提供されている
 - 障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる
→◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
 - 生徒が自らに合った学びを選択できる
→◇県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
→◇県内のどの地域でも様々な学びが提供されている
→◇学び直し、日本語学習、不登校等に対応する学びが提供されている
→◇教員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている

- 取組の方向性の例**
- ◇主体的・対話的で深い学びの実現
 - ◇普通科の特色化や職業系学科の高度化
 - ◇オンリーワンの学校づくり
 - ◇学校規模を踏まえた活性化策検討
 - ◇STEAM教育の推進
 - ◇双方向のオンライン授業や遠隔授業の日常的实施
 - ◇個別最適化された学びの実現
 - ◇キャリア教育の充実
 - ◇社会に開かれた教育課程の実現
 - ◇地域社会や産業界を支える人材育成
 - ◇インクルーシブ教育システムの充実
 - ◇企業や大学などが持つ資源の活用
 - ◇必要な教育のための施設・設備の充実
 - ◇各高校の魅力や特色の発信強化
 - ◇多様な学習ニーズに対応した課程・学科、公立私立の役割分担
 - ◇成年年齢の18歳引下げに対応した教育の充実
 - ◇学校運営体制の充実検討
 - ◇教員のよりよい働き方検討 等

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する 意見聴取について

1. 意見聴取の実施状況について	P2
2. 意見聴取の結果概要	P3
(1) 大学生等	P3
(2) 市町首長	P4
(3) 市町教育長	P4
(4) 中学校長	P5
(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭	P6
(6) 高校教諭	P10

1. 意見聴取の実施状況について

(1) 大学生等

- ・対象 滋賀の教師塾入塾者
- ・実施 令和2年11月28日(土)
- ・内容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回答 県内県立高出身107人、県内私立高出身12人、県外高出身54人 不明3人計176人

(2) 市町首長

- ・対象 滋賀県町村会定期総会及び滋賀県市長会議の出席者
- ・実施 滋賀県町村会定期総会 令和2年10月5日(月)
滋賀県市長会議 令和2年11月2日(月)
- ・内容 上記会議において、『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、質疑応答という形で意見聴取

(3) 市町教育長

- ・対象 県内19市町の教育長
- ・実施 令和2年10月
- ・内容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(4) 中学校長

- ・対象 県内市町立中学校長(47校(市町ごとに1~7校抽出))
- ・実施 令和2年10月
- ・内容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

- ・対象 全県立学校(高校46校、中学3校、特別支援学校15校)の校長と副校長・教頭
- ・実施 令和2年10月
- ・内容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(6) 高校教諭

- ・対象 中堅教諭等資質向上研修(高等学校)対象者
- ・実施 令和2年11月6日(金)
- ・内容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回答 63人

2. 滋賀県立高等学校在り方検討にかかる意見聴取の結果概要

(1) 大学生等

<確かな学力の育成>

- ・学校の授業でグループワークやディスカッションを取り入れるべきだと思います。生徒のやる気を出させ、楽しく受けてもらうためには必要だと感じました。
- ・生徒をやる気にさせるような探究的な授業や将来を考えられるような授業を行ったうえで、基本的な能力が身につくような適切な課題、生徒一人ひとりの学力フォローが必要だと思います。
- ・ディベートなどの自分の意見を述べる機会や相手の考えを受け入れる機会など、お互いが受け入れ合う機会を設けることも大切であるとする。
- ・グローバル化に向けて外国との関わりや関心を向上させるような取り組みをすることや、スマートフォン等の電子機器が普及している為、そういったものの便利さと使用法、危険性と実際に起こりうる事件について学ぶことができる機会を設ける必要がある。
- ・もっと自分から探究的に学べる空間が与えられていれば、もっと楽しく学べたのではないかと感じます。
- ・生徒が自ら動いて感じられるように、主体的になれる経験を多く取るべきだと思う。
- ・大学受験以外の家庭科や書道といった教養や将来のための勉強のほうが楽しかった。教科の勉強もSSHの発展的なものの方が楽しかった。
- ・オンデマンド式にすることで、授業時間内では聞き逃していた先生の言葉を見つけ、より深く学習することができるのではないかと。

<キャリア教育の充実>

- ・高校1年生の時のキャリア選択の活動が良かった。学年全員を対象に、様々な分野の職場の方のお話を聞く機会があり、そこで大手企業で研究をされている方や銀行で働く方のお話を聞いたことで、将来なりたい職業の参考にすることができた。
- ・高校ではアルバイトが禁止だったので、社会のことを学べる機会が少なかったように感じた。
- ・キャリア教育がもっとあれば良かったと思う。大学進学の話はあったが、将来の仕事や自分の生き方を考える機会が欲しかった。
- ・社会に出て働いているOBや、大学で学んでいる先輩たち、いろんな分野で活躍されている人と交流できる機会を設け、生徒自身が自分の「ありたい姿」がイメージできるようにするとよいのでは。
- ・フィールドワークは自分の将来について見据えて考える良い機会だったので、滋賀県立高等学校でもっと取り入れていくべきだと思う。

<学校の特色化>

- ・総合学科の高校で、自分の学びたいと思った授業を選択することができたのが良かった。
- ・母校は単位制の高校で、自分の興味ある分野を選び、学ぶことができたのは良かった。
- ・特進クラスがあり、同じように進学したいという思いが強いクラスの仲間と過ごせ良かった。
- ・生徒のレベルに合わせ、細かなクラス分けをしていくなどのより高いレベルを目指しながらも、一人ひとりの能力に合った授業を取り組んでいくべきだと思う。

<学校行事等>

- ・文化祭などの学校行事は生きる力を育成するためには非常に有効な活動だと考えます。授業はどうしても受動的になってしまうので、能動的に活動できる取組を増やしていくべき。
- ・学校行事のみならず、様々な場面でクラスメイトや教職員と団結できる取組をしていくべきだと思います。

<その他>

- ・魅力を伝える“広報”に力を入れたら良いと思う。また、新しい魅力を作ることよりも、今ある魅力は何かをよく理解し、その魅力を伸ばせるプログラムなどは何か見極めるべきだと思う。
- ・私の県では、住んでいる地域によって受けられる高校が決まっていたので、滋賀県ではその方針がなくなったと聞き、良い方向に進んでいると感じた。
- ・全県一区という制度があったことによって、自分自身が行きたい高校を選択でき、将来について考える機会が与えられたと思います。
- ・私の高校は4クラスだったので、友達同士の繋がりが強かったところが良かったと思う。

(2) 市町首長

<滋賀県町村会>

- ・地域と高校が連携する視点を入れてほしい。
- ・地域において1つの高校の存続は大きい。地元で個々のヒアリングを入れていただきたい。
- ・地元で県立高校のあるところにとって重大であり、それぞれの考えを尊重していただきたい。

<滋賀県市長会>

- ・オンリーワンの学校づくりは必要である。
- ・高校在学中の社会での取組を単位とする仕組みを構築できないか。キャリア教育にもなり、地元への就職にもつながる。
- ・高校の在り方については地域、各市町との協議を丁寧に行い、未来につなげるためにそれぞれの地域の特性に合わせてほしい。
- ・在り方検討が最終的に高校再編にならないように要望する。令和4年度からの地域別協議会で地域の声をしっかり聞いてほしい。
- ・教員の質が大切であり、基本方針に盛り込んでほしい。社会の第一線で活躍している人を活用してほしい。
- ・社会との連携の具体化が求められている。

(3) 市町教育長

<確かな学力の育成>

- ・一斉指導中心からの脱却を図り、生徒の実態や興味関心に配慮して、ICTの活用等、もっと多様な学習形態で子どもたちの学びを深める部分が必要であると考えます。

<キャリア教育の充実>

- ・2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることに向けて、高等学校においてもその意識付けを行う教育も必要であるのではないかと。
- ・地域の企業や団体との連携・体験活動をする中で、学校外の人による高校生の育成を図る。
- ・専門学校や大学への高校卒業後の進学率が高まる中、高校での専門的な学びを生かした進学、さらには将来の仕事につながるような学びの場が必要である。
- ・専門学科はもちろん、普通学科も含め、高校在学中から社会で活動することに取り組み、それで単位を取得できる仕組みを構築できないか。
- ・教科(専門学科)指導のみならず、人との関わりを大事にした教育活動をとおして、自分の考えを広げたり、生き方を考えたりできるような場面をもっと多く仕組む必要があるように思う。
- ・県内のどの地域でも様々な学びが提供されるとともに、キャリア形成を保障するような学校づくりをすることも大事であり、自分を高めるとともに、地域の活性化に貢献する生徒の育成にも重点を置く。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・特別支援教育の対象となる生徒や外国にルーツを持つ生徒に対して、きめ細かな配慮がなされることを望む。

<生徒数減少への対応>

- ・県立高校の人気は南高北低の傾向があるので、特に人口減少地域において魅力と活力ある高校づくりが必要である。
- ・人口減少地域の現状も考え、公立高校の魅力化を図ることにより、他府県からの生徒も来なくなる特色のある高校の創設を願う。
- ・現在の全県一区を立ち止まって考える必要があるのではないかと。また、現在の特色・一般の2段階の選抜は、一般入試に一本化して良いのではないかと。このままの状況を放置しては、再び高校の統廃合の問題が噴出してくることが目に見えている。例え高校であっても、地域とともに歩む学校としての存在は大きいものであり、この問題は地域の活気にも大きく関わっている問題だと考える。
- ・今回の議論が、「最終的に高校再編の話題がメインになる」につながることは避けていただきたい。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

- ・県立高校、特に普通科の魅力や特色が人々に理解されるにはどのような方策があるのか検討されたい。
- ・各校が思い切った特色を打ち出す、「オンリーワンの学校づくり」が必要であると考えます。
- ・高等学校によっては、単一の役割だけでなく複数の役割も期待される。地域の学校として、域内の中学生の多様な学習ニーズを受け止め、多くの役割を担い、多様で、かつ、質の高い学びを提供してほしい。
- ・生徒の普通科志向に加え、高校の偏差値による序列化も関係して、不本意に入学したことにより、入学後の早い段階から不適応感を抱える生徒が一部いる状況も見受けられる。普通科、専門学科ともに、各高校がどのような生徒を求めているのかや、高校3年間でどのような生徒に育てるかなどを明確に中学生やその保護者に示すことにより、生徒本人がその高校で学ぶ目的や希望をもてるような仕組みを強化する必要がある。

- ・県内の人口動態や経済・産業構造、文化的・地理的要因等の特色を捉え、各教科の在り方の見直しや普通科・専門学科及び総合学科が、各生徒が学びたいことを学ぶことができる環境へと整備し、特色・魅力ある学科としてバランスよく配置されることが必要。
- ・文部科学省が進められている「普通科再編」についても、骨子イメージに含めるべきである。
- ・普通科高校の志望動機は、学校の特色よりも学力や成績、点数等で判断することが多い。各校が独自の魅力や特色を打ち出し、より積極的に発信してほしい。

<ICT活用>

- ・「ICT」「オンライン授業」「遠隔授業」等の先端技術に関わることが多く記載されている点は評価できる。今後積極的に推進してほしい。

<推進体制/教員のフォロー>

- ・学級標準人数の低減や通級指導など、「漏れ」のない学校教育を進めるために、生徒数は減れども、教員数は減らすべきではない。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・滋賀県は大都市圏に比べ、進学校が公立高校に多い傾向にあるので、このよき伝統を守り続けてほしい。

<入試制度について>

- ・特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜については、出願する生徒の感覚と、募集する学校側の感覚にずれが生じているように感じる部分がある。各種推薦選抜に関しては、その必要性を検討するとともに、公平性が保たれるように実施していただきたい。

(4) 中学校長

<確かな学力の育成>

- ・これから生きる生徒達は「与えられる」のではなく、「自発的に新たなものを生み出していかなければならない」そういった子どもたちを育成するためにも、STEAM教育をはじめとした、様々な取り組みが必要となってくる。

<キャリア教育の充実>

- ・大学や産業界と連携した専門的な学びや地域社会と結びつきの中で得られる貴重な体験の充実に期待します。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・中学校には自閉情緒学級があるのに、高等学校には通常学級しかないので、コミュニケーション能力等に特性のある生徒が、進学後に人間関係に悩む例が多いように思う。県立高等学校に生徒の多様性に対応して支援できる人員配置や学級の設置等ができるとうれしいと考えている。
- ・現在の高校進学率を考えれば、「インクルーシブ教育」については、今後ますますその取組と小・中学校との連携がもためられるように思います。
- ・多様な生徒の受け入れが可能な仕組みと体制づくりが必要であるとする。特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応がさらに求められていると思う。

<生徒数減少への対応>

- ・国際バカロレアなど学校としての特徴を前面に出し、特色を進めることで、南部の生徒が北進するなどの動きも出るのではないかと思います。中学校にも課題はあると思いますが、高等学校進学時に高校卒業後や将来の仕事に十分に目を向けきれていない面もある。
- ・高校は地域にとって大切な存在である。地域の人材を育成し、将来的に地域に戻って地域に貢献する人材の育成が高校の大きな役割であるとする。しかし、全県一区制により、一部の学校に優秀な生徒が集中し、地域のバランスが崩れているように思われる。本来なら、各校が特色を打ち出すことでカバーすべきだが、特色ある学校作りにも限界があるのではないかと。
- ・現状の高校数のままでは限界があり、今後を考えるとこれまでの歴史や伝統にとらわれず、積極的に学校統合や中高一貫校の設置などに取り組んでいくべきである。
- ・今後、現有数の高校を確保し続ける方向で考えてほしい。生徒数の減少の対応は、1クラスの生徒数を30人に減らすことを考えてはどうかと思う。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

- ・大学や産業界との連携が推進されることは大きく期待するところです。それに加えて県立高校間での連携も図れる形が構築できると良いのではないのでしょうか。〇〇高校の集中講義に参加(ZOOM等でも)して単位認定ができるといった仕組みなども構築できないのでしょうか。
- ・〇〇高校は「文武両道でがんばっている」、〇〇高校は「とても面倒見がよく、学び直しもできる」などのように

学校の魅力や特徴をより発揮していただくことが大切であると感じています。

- ・各高校の魅力・特徴は、特に「普通科」である場合伝わりにくいのか、なぜか「横並び」的なものとして映ってしまっているように思います。滋賀県は比較的、広域的な通学が可能な県であると思います。それだけ、生徒にとっても選択の幅は広いわけで、それに応えうる情報発信が求められているのだと思います。
- ・オンリーワンの高校、その高校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要があると思います。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

- ・滋賀県は第2次産業が中心である。これからの社会構造の変化の中で、滋賀県で生活し滋賀県を支える人間を育てる県立高校でありたいと考える。
- ・琵琶湖を県のほぼ中央に抱え、移動に時間がかかる滋賀県の地理的状況から、専門学科を備えた高校や総合学科の高校、共生社会を日常的に学ぶ高校を一定の地域のなかでつくるのが必要と考える。

<ICT活用>

- ・県立高でも、ICTをフルに活用し、インターネット等で授業を行い、単位認定して行くような高等学校があれば多くのニーズがあると考えます
- ・ICTを活用した対話的・協働的な学習を通して、コミュニケーション力を高めることも、社会人としては欠かせない内容だと考えます。

<PR>

- ・中学校では、一日体験入学、ホームページやリーフレットを活用して高等学校の学習をしています。決して十分ではないと考えています。
- ・予算に違いがあるため単純に比較はできませんが、私立高校に比べるとまだまだアピール不足だと思います。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・私立とのすみ分けを明確にすることも大切だとは思いますが、それでは、さらに私立の魅力や特色に押されてしまうのではないかと懸念します。公立学校こそが、斬新なアイデアと工夫で、私立に負けない魅力や特色を発信いただければと思います。
- ・県内私学の進路担当者が3年生の生徒や保護者向けに説明をされていましたが、学校の特徴を大変わかりやすく説明され、興味の湧くものでした。以前ほど金銭的な面で、私学の壁が高くない状態の中で、特徴的で柔軟な学科の編成や施設・設備の充実は、県立学校にはない良さでした。人口減少が確実に進む中で、県立学校においても選択と集中は避けられないことかと感じました。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

- ・部活動については、今後「地域の部活動」という方向が出されている中、高校での部活をどのように考えるのか。あくまでも高校は、「自己実現をめざす学びの場」でなければならないと考える。

<入試制度について>

- ・これからの県立高校の在り方全般を考える上で、入学者選抜の方法について再検討することも必要だと考える。
- ・生徒数が減少傾向にある中で、県立高校の統合など存続に向けた形態を図っていくうえで、各県立高校を単独受検という形だけでなく、特色の似た複数校の合同選抜制を導入するなどを検討してはどうかと考える。
- ・高校入試の在り方も検討する必要があると思う。筆記や実技だけではなく、「一定期間の体験型入試」なども取り入れ、高校での「自分の学び」をイメージできることは有効と考える。

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

<確かな学力の育成>

(県立学校長)

- ・「目指す姿」を具現化するための「取組の方向性」にある項目を実現するためには、その多くは教育システムの変革に加えて、「教員自身の意識改革」が必要となってくるが、本県の県立高校の在り方を考える前提として、現在、学校教育の根幹となり、生徒が一番拘束される時間となる授業の学びの在り方や、これからの学びの姿などについての議論を深め、全県的なすべての教員の取組となるよう、より具体的な取組の方向性を強く打ち出すことが必要ではないか。
- ・在り方検討の内容や基本方針として打ち出す内容としてはいささかその範疇を超えるかもしれないが、部局を越えた授業改善に関する突っ込んだ議論をどこかでしてほしい。教員にとってはこれまでに「取り組んだことのないこと」を新たに実践せよというのは相当なエネルギーが必要となるだろうし、かなり強制力のある指示、命令に近い施策が必要ではなかろうか。

(県立学校副校長・教頭)

- ・「高等学校の役割」に書かれている内容は充分理解までできるが、現在の日本の入試や進学システムでは本当の意味での生きる力を育むことは非常に難しい状態である。実際の授業は受験対策や詰め込み型になっていることが多

く、日本人の良い大学へ進学・一流企業への就職が美德となっている考え方が変わらなければ、高校の教育も変わらないと思います。

- ・これまでの、知識偏重(テストで覚えたことを再生する)に重点をおいた「正解」にこだわることから脱却することが重要ではないかと考えます。

<キャリア教育の充実>

(県立学校長)

- ・地域(市町)との連携による学校の特色化、活性化に向けて、県から市町へ働きかけ、コンソーシアムの構築などに繋げることも必要である。

(県立学校副校長・教頭)

- ・高等学校では、コミュニティ・スクール等を活用しながら、地域におけるかけがえのない素材の教材化は、必須であると考えます。
- ・自分自身の高校時代においても、これまでの普通科高校での教員経験においても、職業に関するキャリア教育がほとんどできていないと感じる。地域社会と連携して、職場見学や職業体験などの機会を設けたり、自己のキャリアプランニングについて学習できる機会を増やすべきではないか。

<多様な学習ニーズへの対応>

(県立学校長)

- ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。

- ・定時制昼間部は、始業時間が遅く、ゆとりのある日課で学校生活が送れるため、中学時代不登校であった生徒が自分のペースで学べる良い環境であると思っている。

(県立学校副校長・教頭)

- ・高等学校においても不登校など心のケアが深刻化している。そのため、保健室が本来の体の不調を訴える生徒や保健業務に支障をきたしていることがある。スクールカウンセラーが常勤し、こころの問題を抱える生徒にケアが充実すれば不登校やいじめの問題の解決が一層改善できると考えられる。

- ・これからは、少人数制や選択制等で多様な学びが求められてきている時代ではないでしょうか。

- ・通級が万全ではありませんが、どこかの学校にも支援を必要としている生徒がいることと思います。各エリアに通級指導を行える学校をつくり、さらには、巡回通級や他校通級なども整えながら、大規模で多くの生徒が在籍する高校にも制度が行きわたるような対策が必要ではないかと感じています。

- ・特別な配慮を必要とする生徒が各県立高校にも多く在籍する中、インクルーシブ教育の充実は大きな課題で、早急に支援体制や支援方法などのシステムがひろがらねばと感じるところです。

<生徒数減少への対応>

(県立学校長)

- ・再編の基準規模を下回るからといったことでの再編ありきではなく、地域性も重視する必要があると考える。学校を残すために、現在の40人学級から県独自で30人学級等に減数させる方法とはれないものかと考える。

- ・再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りができますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要があると思います。

- ・学校規模が小さくなると、学校の活気や学園祭等の行事・部活動に大きな影響があるため、最低でも4クラス規模が必要ではないか。

- ・生徒数が減少していく地域では、将来を見据えた適正な規模および校数にしていくべきではないか。

- ・特色ある教育を行うには、教える教員、必要な施設が整っていることと、ある程度の生徒数が必要。複数の学校が協力して、特色ある取組を行うことを検討してはどうか。部活動についても上記と同様、複数の学校が協力して実施することを検討してはどうか。複数の学校が協力する際、本校、分校という名称ではなく、〇〇高校△△キャンパスというような形ができないか。

- ・統廃合を考える前に学級定員を30名にするなど、定員を弾力化することが結果として魅力化につながるように感じます。今後魅力化の名のもとに学科を新設されることがあるようでしたら、地域の状況などを考慮しつつ定員を弾力的に運用できるようにしていくのがよいと考えます。

- ・人口減少地域における小規模校の解消のための再編・統合を実施し、一定の規模で教員数も充実した状況を作ることが必要と考える。

(県立学校副校長・教頭)

- ・人口減少、少子高齢化に伴って高校生の人数が減少する中、再編成によって統廃合され、高等学校数が減少することはやむを得ないことであると考えられる。しかし、一方で生徒の通学の安全や学習・部活動の時間の確保の観点から通学に便利であること、それぞれの地域社会で生徒を育成して地域を支える人材を輩出していくことが重要である。したがって各地域における高校が小クラスであっても存続させることにも大きな意義がある。特に人口減少地域の小規模校には、学校の特色を發揮しやすい学科の編成等を推進して魅力ある学校づくりを行い、地域の活性化の貢献につながることを期待する。

- ・中学校卒業生数が減少する中、クラス減がなされているが、1学級の定員数を35人以下にするなどして、生徒一人ひとりに対応しやすくするようにした方がよい。特に、学習意欲に乏しい生徒が多い学校は、30人学級にするなどして、教員が生徒に対して手厚く対応できるようにした方がよい。
- ・普通科高校では、一定数の学級数がないと、生徒の協同・競争による効果や部活動の成立が困難と考えられる。
- ・県立高校として、少子化の影響を受け、小規模となる高校が増えてくるが、地域市町と密接な協力を得ながら各高校の魅力化と特色化を進め、地域の為に存続させていくことが必要であると思います。
- ・1学年小さくて4～大きくて8クラス。今回コロナ不安のため公共交通機関の利用を控えた生徒がいたことを考えると、自転車通学できる学校がやはり必要。志願者数の減少等により統廃合のためJR沿線から離れた学校がなくなっていくことは避けてほしい。
- ・生徒減よってのクラス減や学校再編等を安易に行うのではなく、先行して一部地域だけでも30人学級にする等の、柔軟な発想や取り扱いをしても良いのではないかと考えている。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

(県立学校長)

- ・グローバル人材は育っているのか基だ疑問です。語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性と柔軟性、責任感と使命感、異文化理解などを備えたグローバル人材の育成は急務だと思っています。
- ・進学または就職に特化してはという意見もあるようだが、それは難しいと思う。高校に進学し新しい環境となることが人生を考える上でのきっかけとなればと思う。どこに在籍していても、その学校が提供する学びで、努力と成果次第で夢が実現できる学校作りが必要であると考えます。
- ・地域ごとに、「学力向上・進学重視校」、「楽しい(?)学校」、「規律重視(?)校」、「インクルーシブ推進校」等、学校の方向性を前面に打ち出して、高校の住み分けを図るというのも一案でないでしょうか。(学校間格差拡大になりますか…。)

(県立学校副校長・教頭)

- ・現在、高校普通科を類型化する案も文科省のWGで検討されているようですが、大学等での本格的な研究を考えれば、高校は学問する態度や基礎・基本を身に付ける段階であると思います。このような教育の普遍的な性質を考えると、普通科を類型化するには、よほど慎重にやる必要があると思います。
- ・一つの高校内で様々な対応をしなければいけない現状を考えると、学び直しに特化した学校、上級学校の進学を目指す学校、職業人としてのプロ養成をする学校を再編しつつ、県内の各地域に核となる学校を決め、生徒の能力を高める学びを提供する場をつくる。もちろん、職業専門高校や学び直し中心の高校からでも、十分に進学に対応できるような体制づくりも必要。
- ・徹底したフィールドワーク重視のカリキュラムを持つ学校や、例えば「山」(木、生活、木工、動植物、林業等)に関して三年間探究するコースを持つ学校など、あげればきりがありませんが、それぞれの高校に何か「わくわくする学び」を作ることができれば、高校は魅力的なものになると考えます。
- ・音楽科は、志望者さえあれば、存続させるのにふさわしい価値をもっている。志望者がいない場合に、次の段階として、募集定員を減らし、非常勤講師の措置や施設設備をそれに見合うものに縮小する。美術科との統合については、授業の実施や指導者の配置を考えると厳しいと感じている。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

(県立学校長)

- ・グローバル化時代に対応できる人材育成が求められる。特に専門高校の役割が大きい。専門高校には、それなりの教育予算や施設・設備が必要となるが、地域資源をうまく活用したり、業界との連携した学びも必要。
- ・農業、工業、商業の専門高校では、湖北、湖東、湖南それぞれの地域に歴史や伝統、特色の異なる学校がありますので、今の体制を維持しつつ更なる特色づくりができればよいかと思いますが、本県の規模で、農業3校、工業3校、商業3校を維持していくのは将来的には困難かと思えます。しかし、再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りができますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要がある。(後段部分再掲)
- ・高校の施設・設備の老朽化の改善をお願いします。専門学科の独自性を発揮するには、学校の施設・設備を充実させ学習環境の整備をお願いします。

(県立学校副校長・教頭)

- ・専門高校は、数を減らして、施設・設備や教育内容の質を高めるのがよいと思います。専門高校を志向する生徒は一定数いるので、最先端の技術などに触れて学ぶことができる魅力ある学校、行きたい学校ができればと思います。

<定時制・通信制の役割への対応>

(県立学校長)

- ・転編入できる通信制高校を県下1校ではなく、県北部エリアにも設置。
- ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。(再掲)

(県立学校副校長・教頭)

- ・多くの教員や県民は定時制高校の必要性（存在）について疑問を持っている人が多いと聞く。しかし、多くの不登校を経験した生徒や高校を中退学した経験のある生徒が、学び直しを考えた時など必ず必要となる学校であるので、存続してほしい。

<PR>

(県立学校長)

- ・各校がいかにかに特色ある学校づくりを進め、中学生や保護者にうまくPRしていくことが重要である。
- ・中学校までにいろいろな高校を知る術は、中学3年生の体験入学しかない状態になっている。中高の連携を一層深め、もっと合同練習や出前授業・質問教室などのイベントを催しても良いと考える。体験入学がなければ、家族の出身校と特別な進学校ぐらいしか中学生は知らないのではないかと。高校の発信強化の努力だけではまかないきれない壁がある。

<推進体制/教員のフォロー>

(県立学校長)

- ・魅力ある学校づくりに取り組むのであれば、教員に余裕がなければならぬ。定数法とも関連するが、定数法以外でも教育に潤沢に財源を投入し、正規職員や臨時講師等を増やしたり、施設・設備を改善したりするなどの取組みをする中で各校の目指すべき魅力に対し力を注ぐべきである。
- ・教員の資質向上などの観点から、教員研修の充実についての考察や検討も是非期待したい。
- ・優秀教員確保や入試制度については、何故触れられていないのか。

(県立学校副校長・教頭)

- ・先生方の働き方改革とのバランスも検討する必要があるのではないのでしょうか。
- ・これまでの上から教え込むような立ち位置からの指導を見直し、子どもたちの学びを支援する立ち位置となるような、教員に対しての研修を行うなど、教員の意識改革に努めたい。

<県立高校の役割/私学との関係>

(県立学校長)

- ・本県では以前に比べ私立高校が増え、それぞれが強い特色を出している。それに対して県立高校も各々独自の特色を打ち出してはいるものの、限られた県の財源の中で全体のバランスや公平性もあり、私立高校ほど際立った特色が出しにくい面がある。京都や大阪の高校への進学も選択肢に入れることが比較的容易な県南部と、その他の地域では県立高校に対する捉え方に違いがあると思うが、どの地域の学校であっても、今まで以上に地域と結びついた学校経営が求められている。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

(県立学校長)

- ・生徒数減に伴ってクラス数を極限まで減らしていくと、学校行事や部活動等が縮小していき、結果として学校の活力が失われる。このことを防いでいくための仕組みづくり（例えば近隣校で合同による行事や部活動の実施など）を議論し、実行していく必要がある。

(県立学校副校長・教頭)

- ・高等学校が社会に出る最後の集団になると考えると「協働する力」をもっと大切にしたい。勉強は個人でもできるので集団でしかできないことを取り入れる「協働する時間」というものがカリキュラムあっても良いと思います。
- ・生きる力を育む場に入っていると思いますが、【高等学校の役割】欄に、「協働する力をつける」（協働を経験する場）という内容が示されていると良いと思います。
- ・生きる力を育むためにも高等学校の役割としては、友人同士が互いに励まし合い競争し合って、共に向上する「切磋琢磨」できる環境を提供することも必要だと考える。
- ・生徒の要望があれば、所属高校以外の高校の部活動に参加し、大会に出場(所属校名)できる仕組みをつくる。特に所属校の引率問題の緩和が必要。

<入試制度について>

(県立学校長)

- ・生徒数が減少する中で、定員確保に向け、各校精一杯の特色化の努力を続けている。地域社会の活力衰退の原因を学校教育に求めることや、これ以上の特色化を求めることは限界である。特色・推薦選抜をブロック別に戻し、一般選抜を全県一区とするなどの入試制度改革はできないか。

(県立学校副校長・教頭)

- ・入学者選抜があるため、その制度も併せて検討する必要があるのではないのでしょうか。

(6) 高校教諭

<確かな学力の育成>

- ・生徒が自分を表現するような活動をもっと授業に取り入れたり、社会と関わることができるような活動を取り入れることで、生徒が主体的に学びを深めたり、自己を表現したり、多様な価値観を受け止めたり、自分が社会の中でどう行動すべきかを判断したりすることができるよう努めたい。

<キャリア教育の充実>

- ・地域との連携も積極的に行い、座学だけでなく、社会とのつながりも持つ必要があると思った。そのためには、我々ももっと視野を広く持つことが大切であると思った。
- ・高校を卒業してからの人生にしっかり役立つような経験と知識を生徒たちが得られる場になるように努めていきたい。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・グローバル化や特別な教育的支援が必要な生徒の増加、いじめ問題等の課題がある中で、自分とは違う子を排除するのではなく、多様性を認められ、受け入れられるような取組が必要だと思う。
- ・特別な教育的支援や部活動において専門家をつけることが必要なのではないか。
- ・多様な生徒を受け入れるには、スクールカウンセラーや特別な教育的支援に対応できる専門の教員、全日制だけじゃない多様な学びができる通信、単位制の学校が増えるといいのでは。

<学校の特色化>

- ・オンリーワンの特色を出すことは、かなりパワーのかかることであると思います。それを実現させるためには、現場の状況、声をより吸い上げてもらい、教員全体が各校の特色を生み出せるような思考時間をもてるように、余裕を持てるように変わること、変えることへの支援が必要だと思いました。
- ・かつての管理職の先生に言われた言葉が今も強く印象に残っている。「停滞は衰退である。」時代の流れに取り残されないよう、恐れずにスクラップ&ビルドに取り組んでいきたいと思う。
- ・他府県と比較しても県立高校の特色化や魅力化が進んでいないのが現状で、マイナーチェンジではなく、抜本的な目に見える変化が県民に伝わらないといけなと感じます。
- ・日々変化する世界において、学校もより良い変化をすべきですが、実際には変わらない、というより、変えようとする教員が多いことも残念な事実です。社会の変化に合わせて、それにあった教育を提供することが今後の我々の使命だと思います。
- ・それぞれの学校にはそれぞれの課題があり、再編などのハード的的改革以外に、内側からしっかり学校の軸を支えていくことが大切だと思いました。
- ・集団だからこそできる学びや体験を各学校の特色として打ち出していく必要があると強く感じた。

<ICT活用>

- ・どういう場面でICTを活用すれば、どういった効果があるのか(個別最適化や反転学習など)全体で教員も学んでいくべきではないでしょうか。

<その他>

- ・外部指導や地域の方との連携で負担が増え、本来やるべき教科指導や部活指導に力を注ぐことが十分できないことが課題と考える。
- ・ある程度「過ごしやすく快適な」環境を用意してやらなくては、学習の効果以前に学習にのぞむ姿勢すら取れないのではないかな。
- ・教員数を増やし、1クラスあたりの生徒数を減らし、生徒により深く関わる機会を増やすことができればよい。